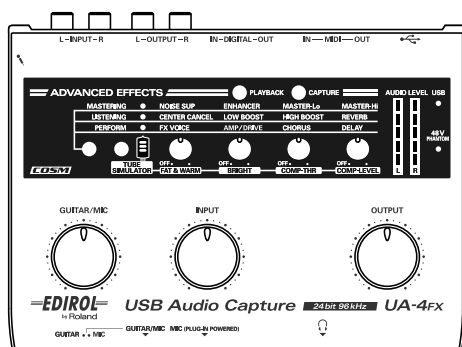


USB Audio Capture 24 bit 96 kHz UA-4FX

応用ガイド

このたびは、USB オーディオ・インターフェース UA-4FX をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。



この機器を正しくお使いいただくために、ご使用前に「安全上のご注意」(P.2)と「使用上のご注意」(P.4)をよくお読みください。また、この機器の優れた機能を十分ご理解いただくためにも、本書をよくお読みください。取扱説明書は必要なときにすぐに見ることができるよう、手元に置いてください。






安全上のご注意

火災・感電・傷害を防止するには

△ 警告と △ 注意の意味について

 警告	取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を表わしています。
 注意	取扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される内容を表わしています。 ※物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を表わしています。

図記号の例

	△は、注意（危険、警告を含む）を表わしていません。 具体的な注意内容は、△の中に描かれています。左図の場合は、「一般的な注意、警告、危険」を表わしています。
	⊘は、禁止（してはいけないこと）を表わしていません。 具体的な禁止内容は、⊘の中に描かれています。左図の場合は、「分解禁止」を表わしています。
	●は、強制（必ずすること）を表わしています。 具体的な強制内容は、●の中に描かれています。左図の場合は、「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表わしています。

----- 以下の指示を必ず守ってください -----

警告

- この機器を使用する前に、以下の指示と取扱説明書をよく読んでください。



- この機器を分解したり、改造したりしないでください。



- 修理／部品の交換などで、取扱説明書に書かれていないことは、絶対にしないでください。必ずお買い上げ店またはローランド・サービスに相談してください。



- 次のような場所での使用や保存はしないでください。



- 温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）
- 水気の近く（風呂場、洗面台、濡れた床など）や湿度の高い場所
- 雨に濡れる場所
- ホコリの多い場所
- 振動の多い場所



警告

- この機器を、ぐらつく台の上や傾いた場所に設置しないでください。必ず安定した水平な場所に設置してください。



- この機器を単独で、あるいはヘッドホン、アンプ、スピーカーと組み合わせ使用した場合、設定によっては永久的な難聴になる程度の音量になります。大音量で、長時間使用しないでください。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、直ちに使用をやめて専門の医師に相談してください。



- この機器に、異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）や液体（水、ジュースなど）を絶対に入れないでください。



⚠ 警告

- 次のような場合は、直ちに電源を切って、お買い上げ店またはローランド・サービスに修理を依頼してください。



- 煙が出たり、異臭がしたとき
- 異物が内部に入ったり、液体がこぼれたりしたとき
- 機器が（雨などで）濡れたとき
- 機器に異常や故障が生じたとき

- お子様のいるご家庭で使用する場合、お子様の取り扱いやいたずらに注意してください。必ず大人のかたが、監視／指導してあげてください。



- この機器を落としたり、この機器に強い衝撃を与えないでください。



- CD-ROM を、一般のオーディオ CD プレーヤーで再生しないで下さい。大音量によって耳を痛めたり、スピーカーを破損する恐れがあります。



⚠ 注意

- 接続したコードやケーブル類は、複雑にならないように配慮してください。特に、コードやケーブル類は、お子様の手が届かないように配慮してください。



- この機器の上に乗ったり、機器の上に重いものを置かないでください。



- この機器を移動するときは、外部機器との接続を外してください。



- ファンタム電源供給の必要なコンデンサー・マイクロホンを接続したとき以外は、ファンタム電源を必ずオフにしてください。ダイナミック・マイクロホンやオーディオ再生装置などにファンタム電源を供給すると故障の原因になります。マイクロホンの仕様については、お使いのマイクロホンの取扱説明書をお読みください。



(本機のファンタム電源：DC 48V、5mA Max)

使用上のご注意

2 ページに記載されている「安全上のご注意」以外に、次のことに注意してください。

電源について

- 接続するときは、誤動作やスピーカーなどの破損を防ぐため、必ずすべての機器の電源を切ってください。

設置について

- この機器の近くにパワー・アンプなどの大型トランスを持つ機器があると、ハム（うなり）を誘導することがあります。この場合は、この機器との間隔や方向を変えてください。
- テレビやラジオの近くでこの機器を動作させると、テレビ画面に色ムラが出たり、ラジオから雑音が出ることがあります。この場合は、この機器を遠ざけて使用してください。
- 携帯電話などの無線機器を本機の近くで使用すると、着信時や発信時、通話時に本機から雑音が出ることがあります。この場合は、これらの機器を本機から遠ざけるか、もしくは電源を切ってください。
- 直射日光の当たる場所や、発熱する機器の近く、閉め切った車内などに放置しないでください。変形、変色することがあります。
- 極端に温湿度の違う場所に移動すると、内部に水滴がつく（結露）ことがあります。そのまま使用すると故障の原因になりますので、数時間放置し、結露がなくなってから使用してください。
- 設置条件（設置面の材質、温度など）によっては本機のゴム足が、設置した台などの表面を変色または変質させることがあります。ゴム足の下にフェルトなどの布を敷くと、安心してお使いいただけます。この場合、本機が滑って動いたりしないことを確認してからお使いください。

お手入れについて

- 通常のお手入れは、柔らかい布で乾拭きするか、堅く絞った布で汚れを拭き取ってください。汚れが激しいときは、中性洗剤を含んだ布で汚れを拭き取ってから、柔らかい布で乾拭きしてください。

- 変色や変形の原因となるベンジン、シンナーおよびアルコール類は、使用しないでください。

修理について

- お客様がこの機器を分解、改造された場合、以後の性能について保証できなくなります。また、修理をお断りする場合もあります。
- 修理に出される場合、記憶した内容が失われることがあります。大切な記憶内容は、メモしておいてください。修理するときには記憶内容の保存に細心の注意を払っておりますが、メモリ一部の故障などで記憶内容が復元できない場合もあります。失われた記録内容の修復に関しましては、補償も含めご容赦願います。
- 当社では、この製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打切後 6 年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。なお、保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店、または最寄りのローランド・サービスにご相談ください。

その他の注意について

- 記憶した内容は、機器の故障や誤った操作などにより、失われることがあります。失っても困らないように、大切な記憶内容はメモしておいてください。
- 本体メモリーの失われた記憶内容の修復に関しましては、補償を含めご容赦願います。
- 故障の原因になりますので、ボタン、つまみ、入出力端子などに過度の力を加えないでください。
- ケーブルの抜き差しは、ショートや断線を防ぐため、プラグを持ってください。
- 音楽をお楽しみになる場合、隣近所に迷惑がかからないように、特に夜間は、音量に十分注意してください。ヘッドホンを使用すれば、気がねなくお楽しみいただけます。

- 輸送や引っ越しをするときは、この機器が入っていたダンボール箱と緩衝材、または同等品で梱包してください。
- この機器が入っていた梱包箱や緩衝材を廃棄する場合、各市町村のゴミの分別基準に従って行ってください。
- 接続には、当社ケーブル（PCSシリーズなど）をご使用ください。他社製の接続ケーブルをご使用になる場合は、次の点にご注意ください。
 - 接続ケーブルには抵抗が入ったものがあります。本機との接続には、抵抗入りのケーブルを使用しないでください。音が極端に小さくなったり、全く聞こえなくなる場合があります。ケーブルの仕様につきましては、ケーブルのメーカーにお問い合わせください。
- 同梱のCD-ROMを開封する前に、必ず「使用許諾契約書」をお読みください。CD-ROMを開封した時点で、使用許諾契約書に記載された事項をご承諾いただいたこととなります。

CD-ROMの取り扱い

- ディスクの裏面（信号面）に触れたり、傷をつけたりしないでください。データの読み出しがうまくいかないことがあります。ディスクの汚れは、市販のCD専用クリーナーでクリーニングしてください。

著作権について

- 第三者の著作物（音楽作品、映像作品、放送、公演、その他）の一部または全部を、権利者に無断で録音し、配布、販売、貸与、公演、放送などを行うことは法律で禁じられています。
- 本機では、外部機器とデジタル接続でオーディオ信号をやりとりする際、SCMS（Serial Copy Management System）による制約の一部を受けず録音を行うことができます。これは本機が専ら音楽制作を目的としており、他者の著作権を侵害しない作品（自作曲など）の録音までが、制約を受けることがないよう設計されているためです。（SCMSとは、デジタル接続を介しての、第二世代以降のコピー録音を制限する機能です。著作権保護の目的で、MDレコーダーなどの民生用デジタル・オーディオ機器に搭載されています。）

- 第三者の著作権を侵害する恐れのある用途に、本機を使用しないでください。あなたが本機を用いて他者の著作権を侵害しても、弊社は一切責任を負いません。
- 個人で楽しむこと（私的使用）を目的としても、SCMS等の技術的保護手段を回避して第三者の著作物を無断で複製することは、第三者の著作権を侵害する行為となり、法律で禁じられています。
- 技術的保護手段が施されていないもの、及びSCMSに対応しての複製に関しては、従来どおり私的使用の範囲で行えます。

- ※ Microsoft、Windowsは、米国 Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標です。
- ※ 本書ではMicrosoft Corporationのガイドラインに従って画面写真を使用しています。
- ※ Windows®の正式名称は、Microsoft® Windows® operating systemです。
- ※ Apple、Macintosh、iTunesは、米国 Apple Computer, Inc.の米国及びその他の国における登録商標です。
- ※ Mac OSは、米国 Apple Computer, Inc.の登録商標です。
- ※ Pentiumは、米国 Intel Corporationの登録商標です。
- ※ MIDIは社団法人音楽電子事業協会（AMEI）の登録商標です。
- ※ 文中記載の会社名及び製品名は、各社の商標または登録商標です。
- ※ OMSは、米国 Opcode Systems, Inc.の登録商標です。
- ※ FreeMIDIは、米国 Mark of the Unicorn社の商標です。

目次

UA-4FX の特長	8
Sound it! を使う	9
用途別の接続方法.....	23
カセット・テープやレコードの音をパソコンにとりこむ	23
パソコンのデータを MD や DAT に録音する	26
CD / MD / DAT の出力をデジタルでパソコンに取り込む.....	27
ギターやマイクを録音する.....	28
ファンタム電源対応のコンデンサー・マイクで録音する	30
インターネット・ラジオなどのパソコン・サウンドを録音する	32
パソコンで 5.1ch サラウンド再生.....	33
エフェクトをかける	34
アドバンス・エフェクト (3つの特長).....	34
エフェクトのかけ方	37
エフェクトを使ってみよう	38
Virtual Sound Canvas (Windows)	49
資料	53
ドライバの設定 (ADVANCE スイッチ ON)	54
ドライバのインストールと設定 (Mac OS 9)	57
バックグラウンドの処理を優先する (Windows)	62
ドライバ署名オプションを設定する	63
標準ドライバ・モード (ADVANCE スイッチ OFF)	64
トラブルシューティング	65
お問い合わせの窓口のご案内.....	76
主な仕様.....	79
ブロック図.....	80
索引	81

UA-4FX は、同梱の Sound it! を組み合わせることで、オーディオの録音、編集、MP3 への変換などを行うことができます。
このマニュアルでは、UA-4FX の特長を活かした様々な使い方を説明します。

UA-4FX の特長	P.8
Sound it! を使う	P.9
用途別の接続方法	P.23
エフェクトをかける	P.34
Virtual Sound Canvas (Windows)	P.49

UA-4FX の特長

24ビットの圧倒的な高音質で、デジタル／アナログ多彩なオーディオ・ソースの入出力を実現

- 驚異のサウンド・クオリティでアナログ・ソース（レコード、カセットテープ）をパソコンへ取り込みます。
- 44.1kHz / 48kHz / 96kHz 24ビットのハイ・クオリティ・サウンド
- デジタル（オプティカル）入出力端子を装備、サンプリング周波数 44.1kHz / 48kHz / 96kHz に対応、CD / MD / DAT のオーディオ信号を音質劣化無く取り込めます。

録音／再生に威力を発揮ワンタッチ操作の24ビット高品質オーディオ・プロセッサ ADVANCED EFFECT 搭載

- 真空管アンプ・シミュレーター搭載で、MP3 やインターネット・ラジオなどのデジタルサウンドを、真空管特有の太くて暖かい音にできます。アナログソースも、真空管特有の暖かみのあるサウンドでキャプチャーでき、アナログの良さを損ないません。
- 簡単操作でリアルタイムにアナログ・ソースのヒスノイズを除去、更に音質や音圧を補正して太くてメリハリのある音がよみがえります。
- 再生用オーディオ・プロセッサも充実しています。のびのある高域、迫力の重低音、更に深みのあるリバーブは広がりサウンドを演出。パソコンが AV 機器に！センターチャンネルを駆使すれば、お手持ちの CD を使って、パソコンがカラオケ・マシンに！
- ギターやボーカルの録音にも最適です。パフォーマンス用オーディオ・プロセッサや、7色の声の変化が楽しめる FX ボイスを搭載している他、ギター・アンプのナチュラルな歪みから派手な歪みまでを幅広くカバーする AMP/DRIVE、コーラス、ディレイを、ギタリストから絶大な支持を得ている BOSS のエフェクトから厳選して搭載しています。

コンパクト・サイズだからデスクトップで気軽に使える持ち運びも簡単

USB ケーブルを通じてパソコンから電源を供給するバス電源方式を採用しています。AC アダプターを接続する必要がないため、ノート型パソコンに最適です。

ゲーム・サウンドも圧倒的な迫力で再生可能

パソコンのオーディオ環境をトータルにパワーアップできます。

ドルビー・デジタル 5.1 チャンネル再生にも対応

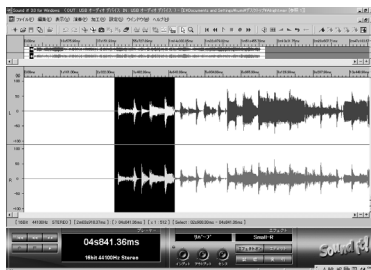
AV アンプと接続すれば、映画館のダイナミック・サウンドが実現します。

- ※ Windows XP へのみ対応しています。
- ※ 5.1 チャンネル再生には、Intervideo 社 WinDVD Version 4 以降が別途必要です。

Sound it! を使う

Sound it! とは？

Sound it! は、UA-4FXを使ってデジタル変換された音声信号を、ハードディスクに録音したり、録音された音声信号に、デジタル信号処理によるさまざまな編集、加工、エフェクト処理を行うことができるソフトウェアです。



(Windows 用の画面です。)

ここでは Sound it! のインストール方法、および基本操作を説明します。

Sound it! は Windows/Macintosh のどちらか一方でしか使えません

付属の CD-ROM には、Windows 版および Macintosh 版の Sound it! が入っています。しかし、インターネット社ソフトウェア使用許諾契約書の内容上、Sound it! は 1 ライセンスにつき、Windows が Macintosh のどちらか一方でしか利用することができません。

- ※ Mac OS 9 で Sound it! をお使いになる場合は、**ADVANCE** スイッチをオフ (P.64) にしてお使いください。
この場合、44.1kHz 16bit でお使いいただけます。

Sound it! のインストール

Macintosh をお使いの場合は、P.11 を参照してください。

Windows

- 1 CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブに入れます。
- 2 Windows のスタート・ボタンをクリックし、表示されたメニューからファイル名を指定して実行をクリックします。

3

表示されたダイアログの**名前**の欄に、**「D:¥Soundit3¥Setup.exe」**と入力して **[OK]** をクリックします。

- ※ ドライブ名「D:」は、お使いの環境によって異なる場合があります。CD-ROMのドライブ名にあわせてください。

または、**[参照]** をクリックして CD-ROM ドライブの **Soundit3** フォルダにある **Setup (.exe)** を選択して **[開く]** をクリックし、**[OK]** をクリックします。



4

[OK] をクリックします。

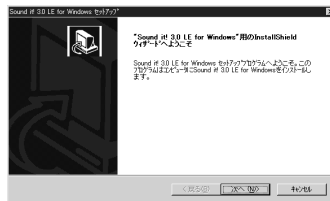
5

「**“Sound it! 3.0 LE for Windows”用のInstallShield ウィザードへようこそ**」ダイアログが表示されたら、**[次へ]** をクリックします。

6

使用許諾契約をお読みの上、ご同意いただけましたら、**[はい]** をクリックします。

契約にご同意いただけない場合は、Sound it! を使用することはできません。



7

「**ユーザの情報**」のダイアログで各項目を入力し、**[次へ]** をクリックします。

シリアル番号	Sound it! ユーザー登録カードの「シリアル番号」欄に記載されているシリアル番号を入力してください。
CD キー	以下の番号を入力してください。

8

「**インストール先の選択**」ダイアログが表示されます。Sound it! のインストール先（インストールする場所）を確認して、**[次へ]** をクリックします。インストール先のフォルダを変更する場合は、**[参照]** をクリックして指定してください。

9

「**プログラム フォルダの選択**」ダイアログが表示されます。プログラムフォルダの名前を確認して、**[次へ]** をクリックします。

10

「**関連付けを行うファイルの選択**」ダイアログが表示されます。ファイルの関連付けを確認して、**[次へ]** をクリックします。

ファイルの関連付け

.AU/.SND または **.AIF/.AIFF** ファイルをダブルクリックすると、自動的に Sound it! が起動するようになります。

11

「**WMA フォーマットのサポート**」ダイアログが表示されます。WMA フォーマットのファイルを読み書きする場合には、チェック・ボックスにチェックを入れ、**[次へ]** をクリックします。

12

「作成するショートカットの選択」ダイアログが表示されます。デスクトップに作成するショートカットを確認して、[次へ] をクリックします。

ショートカットをデスクトップに作成すると、作成されたアイコンをダブルクリックするだけで、Sound it! を起動することができます。

13

「Sound it! Lesson のコピー」ダイアログが表示されます。Sound it! Lesson をハードディスクにコピーする場合は、チェック・ボックスにチェックして、[次へ] をクリックします。

ハードディスクにコピーした場合は、Sound it! Lesson を起動する際に CD-ROM は必要ありません。

Sound it! Lesson

Sound it! の機能や操作が一目でわかるマルチメディア・テキスト (html 形式) です。

14

「ファイル コピーの開始」ダイアログが表示されます。内容を確認して、[次へ] をクリックします。

15

「オプション選択」ダイアログが表示されます。必要なオプションをクリックして、[次へ] をクリックします。

16

インストールが完了したら、Windows を再起動します。

以上で Sound it! のインストールが終わりました。

続いて、Sound it! と UA-4FX を使用するための設定を行います。

『Sound it! を起動する』(P.13) へ進みます。

Macintosh

※ Windows をお使いの場合は、P.9 を参照してください。



Mac OS 9 をお使いの場合、システムフォルダー機能拡張にある CarbonLib のバージョンによっては、Sound it! が起動しない場合があります。アップルのホームページから最新版を入手しアップデートしてください。

1

CD-ROM を Macintosh の CD-ROM ドライブに入れます。

2

Sound it 3 フォルダの中の **Sound it! 3.0 インストーラ** アイコンをダブルクリックします。



Sound it! 3.0 インストーラ

3

「Sound it! 3.0 for Macintosh へようこそ」ダイアログが表示されます。

内容をよくお読みになり、[続ける] をクリックします。

使用許諾にご同意いただけない場合は、Sound it! を使用することはできません。

- 4 カスタムインストールを選択します。

Sound it! プログラムとLessonをハードディスクにコピーすることができます。ハードディスクにコピーした場合は、Sound it! Lessonを起動する際にCD-ROMは必要ありません。インストールするフォルダを変更する場合は、**インストールの場所**をクリックして変更してください。



Sound it! Lesson

Sound it! の機能や操作が一目でわかるマルチメディア・テキスト (html 形式) です。

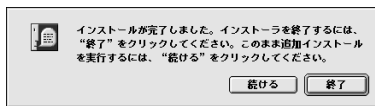
- 5 [インストール] をクリックしてインストールを開始します。

- 6 CD キーを入力し、[OK] をクリックします。

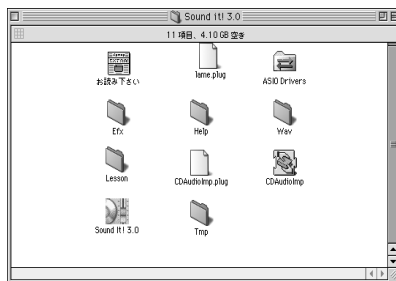
以下の番号を入力してください。

CD キー

- 7 右のようなダイアログが表示されますので、終了をクリックします。



- 8 右のようにファイルが作成され、インストールが終了します。



- 9 Macintosh を再起動します。

Sound it! を起動する

Windows

- 1 ▶ UA-4FXとパソコンを USB ケーブルで接続します。
あらかじめ、別紙「はじめに必ずお読みください」の『ドライバのインストールと設定 (Windows)』(P.2) での設定を済ませておいてください。
- 2 ▶ Windows のスタート・ボタンから、プログラム (Windows XP では、すべてのプログラム) | **Sound it! 3.0 LE** | **Sound it! 3.0 LE** を選択します。
または、デスクトップの **Sound it! 3.0 LE** のショートカットをクリックします。

Macintosh



Mac OS 9 をお使いの場合、システムフォルダー機能拡張にある CarbonLib のバージョンによっては、Sound it! が起動しない場合があります。アップルのホームページから最新版を入手しアップデートしてください。

- 1 ▶ UA-4FXとパソコンを USB ケーブルで接続します。
あらかじめ、別紙「はじめに必ずお読みください」の『ドライバのインストールと設定 (Mac OS X)』(P.9) または『ドライバのインストールと設定 (Mac OS 9)』(P.57) での設定を済ませておいてください。
- 2 ▶ インストールしたフォルダの中の **Sound it! 3.0** アイコンをダブルクリックします。



Sound It! 3.0

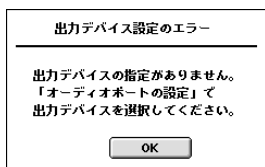
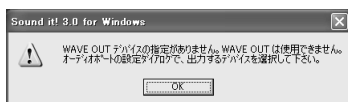
初回起動時には、**ユーザー登録**のダイアログが開きます。
ユーザー名の欄にお客様のお名前を、**シリアル番号**の欄に Sound it! ユーザー登録カードの「シリアル番号」欄に記載されているシリアル番号を入力してください。
[OK] をクリックします。

オーディオ・デバイスを選択する

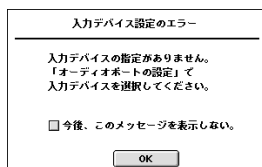
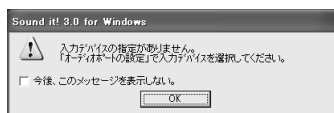
Sound it! を初めて起動したときは、オーディオ・ポートの設定を行う必要があります。Sound it! が、ウェーブの入出力に使用するためのデバイス (UA-4FX) を指定します。Sound it! の初回起動時や、使用するサウンド・カード、オーディオ機能を変更した場合は、必ずこの設定を行なってください。

最初に起動した時、またはオーディオ・ポートの設定が行われていない場合、以下のようなメッセージが表示されます。いずれかのメッセージが表示された場合は、[OK] をクリックし、手順 2. を参考に、続いて表示される「オーディオポートの設定」ダイアログで入出力に使用するデバイスを指定してください。

▼ WAVE OUT デバイスの指定がない場合



▼ WAVE IN デバイスの指定がない場合

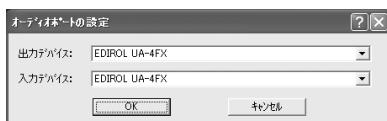


1 Sound it! の設定メニューからオーディオポートの設定をクリックします。

2 「オーディオポートの設定」ダイアログが表示されます。

ウェーブの入出力に使用するオーディオ・デバイスとして UA-4FX を使用する場合は、出力デバイスおよび入力デバイスを次のように設定します。

Windows の場合：



Mac OS X の場合：

オーディオポートの設定

マネージャー

出力デバイス

入力デバイス

CoreAudio設定

出力:

入力:

Mac OS 9 の場合：

オーディオポートの設定

マネージャー

出力デバイス

入力デバイス

サウンドマネージャー設定

出力:

入力:

3

[OK] をクリックします。

以上で設定は終了です。


続いて Sound it! の使い方を説明します。

録音する

UA-4FX に接続されているギターの演奏、ボーカル、オーディオ機器のデジタル出力などを録音することができます。ここでは録音する場合の基本的な手順を説明します。

新規ファイルを作成する

まずは新規ファイルを作成し、作成するオーディオ・データの音質を決定します。

- 1 ファイル・メニューから、**新規作成**をクリックします。
またはツールバーの  をクリックします。
- 2 ウェーブの**新規作成**ダイアログで、作成するウェーブのビット・レゾリューション（ビット数）、チャンネル（MONO / STEREO）、**サンプリング・レート**を指定します。



サンプリング・レートは、UA-4FX のサンプリング周波数切り替えスイッチで設定している周波数と同じ値にします。

- ※ CD を作成するためには、**サンプリング・レートを 44100Hz** に設定してください。UA-4FX のサンプリング周波数切り替えスイッチも **44.1kHz** に設定します。

- 3 [OK] をクリックします。



デジタル信号を録音する場合は、UA-4FX のサンプリング周波数切り替えスイッチと、外部デジタル機器の周波数を同じ周波数に設定する必要があります。また、UA-4FX のサンプリング周波数切り替えスイッチを切り替えたときには、UA-4FX とパソコンを接続している USB ケーブルをいったん外して接続しなおしてください。
接続をしなおす前には、必ず Sound it! を終了させてください。

録音する


準備が完了したら、以下の手順で録音します。

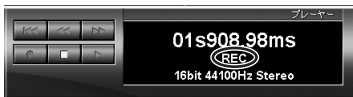
- 1 ▶ 録音するソースがデジタルかアナログかによって、UA-4FXの録音ソース切り替えスイッチを切り替えてください。
※ 別紙「はじめに必ずお読みください」(P.14)を参照してください。
- 2 ▶ 録音するソースがアナログの場合には、録音する音声をUA-4FXに入力し、UA-4FXの入力ボリュームを操作して、入力レベル・インジケータが赤く点灯しないぎりぎりのレベルになるように入力レベルにあわせませす。
- 3 ▶ Sound it! の設定メニューから、入力レベルを開くを選択します。

- 4 ▶ レベル・メーターが振れていることを確認します。





- 5 ▶ レベルの設定と確認が終わったら、ウェーブ入力レベル・ウィンドウを閉じます。

- 6 ▶ ツールバーの  を押します。続けて、UA-4FX と接続しているオーディオ機器で、録音するための音声を再生させませす。
録音中は、プレーヤーに「REC」と表示されます。ウェーブ・ウィンドウの右下の小さいカウンターも動きます。



[16bit 44100Hz STEREO] [1m15s400.00ms] -> 01s908.98ms [x1:4096] [Select:] [Rec: 1s908ms]

- 7 ▶ 演奏が終了したら、ツールバーの  をクリックします。
- 8 ▶ ツールバーの  をクリックして、録音したデータを再生します。

メモ

振れない場合、『オーディオ・デバイスを選択する』(P.14)を参考にして、オーディオ・ポートが正しく設定されているかどうか確認してください。

注意

録音中に波形は表示されません。

メモ

アナログ信号を録音した場合、音が歪んでいるときには入力レベルを下げて、再度録音してみてください。

注意

UA-4FXの録音ソース切り替えスイッチがDIGITALになっているとパソコンのオーディオ・データを再生することができません。
ANALOGに設定してください。



編集する～録音したデータの不要な部分を消す～



Sound it! は、簡単な操作で波形の編集を行うことができます。ここでは、波形編集の基本的な手順を説明します。

波形を拡大／縮小表示する

エディット・ウィンドウ、またはディスプレイ・ウィンドウで、任意の位置（時間軸）を拡大／縮小表示することができます。これにより、波形の選択や確認が容易になります。波形を拡大／縮小するには、ウィンドウの右下にあるボタンを使用します。

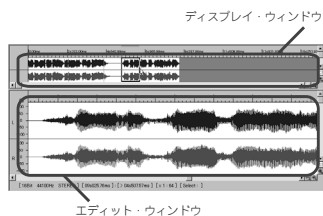
- ※ ディスプレイ・ウィンドウでは、エディット・ウィンドウで表示する範囲を指定することができます。

	クリックするたびに、カーソル位置を中心に拡大表示します。
	クリックするたびに、カーソル位置を中心に縮小表示します。

- ※ 、 と表示される場合もあります。

1 ▶ ディスプレイ・ウィンドウで、拡大したい範囲をマウスでドラッグします。

2 ▶ 選択範囲がエディット・ウィンドウに拡大表示されます。



編集する範囲を選択する

波形を編集する前に、まずは、編集する範囲を選択します。

Sound it! では様々な方法で波形を選択することができます。選択後、ウェーブの編集、加工、エフェクトを実行します。また、必要に応じてゼロクロス補正を行なうことができます。また、範囲を選択した状態で演奏すると、その範囲をループ演奏します。以下の方法を組み合わせることでスピーディに波形を選択することができます。

マウスで左右にドラッグして選択する

エディット・ウィンドウで、マウスをドラッグして任意の範囲を選択することができます。ウェーブがステレオの場合は、L/R チャンネル同時選択、L チャンネル、R チャンネルのみを選択することができます。

選択範囲を削除する

任意の範囲を選択した状態で次の操作を行うと、選択範囲のデータが削除され、範囲の開始点と終了点がつながります。選択範囲のデータはペーストバッファ（一時記憶領域）に入ります。

- 1 ▶ 削除したい範囲を選択します。
- 2 ▶ 編集メニューから切り取り・カットをクリックします。

選択範囲以外を削除する






任意の範囲を選択した状態で次の操作を行うと、選択範囲の部分を残して他のデータが削除されます。

- 1 ▶ 残したいデータの範囲を選択します。
- 2 ▶ 編集メニューから切り取り・トリムをクリックします。

再生する

オーディオ・データを再生するには、プレーヤーを使用します。



再生		カーソル位置から演奏を開始します。範囲選択されている場合は選択範囲をループ（繰り返し）演奏します。
停止		演奏／録音を停止します。カーソルも現在位置で停止します。
巻戻し		現在表示しているズーム倍率のサンプル数ずつ、カーソルを戻します。
早送り		現在表示しているズーム倍率のサンプル数ずつ、カーソルを進めます。
頭出し		ウェーブの先頭位置（0 サンプル位置）にカーソルを移動します。




プレーヤーが表示されていない場合は、表示メニューからツールバープレイパネルをクリックします。



録音ソース切り替えスイッチがDIGITALになっていると、パソコンのオーディオ・データを再生することができません。ANALOGに設定してください。

ファイルを開く

- 1 ファイル・メニューから**読み込み**をクリックします。
または、ツールバーにある  アイコンをクリックします。
- 2 オーディオファイルの**読み込み**ダイアログのファイルの種類
のプルダウン・リストから、開きたいファイルの種類を
選びます。

Sound it! で開くことのできる主なファイル

対応フォーマット	拡張子
WAV	*.wav
AIFF/AIFC	*.aif, *.aiff, *.aifc
MP3	*.mp3
NeXT/Sun	*.au, *.snd
PCM Raw Data	*.raw, *.pcm

- 3 目的のファイルを選択して **[開く]** をクリックします。



AIFF は Macintosh で標準的に使用されているファイル形式です。



PCM Raw Data ファイルを開く場合、ウェーブのフォーマットを指定するダイアログが開きます。



試聴ボタンを押すと、ファイルを読み込む前に、選択しているファイルを再生することができます。
※ Mac OS X には試聴ボタンはありません。

ファイルに保存する

以下の手順でオーディオ・データを保存します。

- 1 ファイル・メニューから**名前を付けて保存**を選択します。
- 2 **名前を付けて保存**ダイアログで、ファイルを**保存する場所**と、**ファイルの種類**を指定します。
※ MP3 ファイルで保存する場合は、ファイルの種類で **MP3(*.mp3)** を選びます。
- 3 **ファイル名**を入力して、**[保存]** をクリックします。
※ MP3 ファイルで保存する場合は、MP3 の設定ダイアログが表示されますので、お好みのビットレートを選びます。

MIDI ファイルをオーディオ・ファイルに変換する

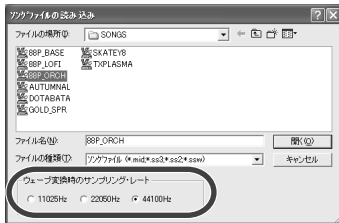
MIDI ファイルをオーディオ・ファイルに変換するには、Virtual Sound Canvas のオーディオ変換機能を使用します。あらかじめ、ご使用のパソコンに Virtual Sound Canvas ver.3.0 をインストールしてください。

(→『Virtual Sound Canvas (Windows)』(P.49))

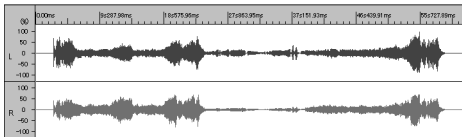
ここでは、例として、CD-ROM に収録されている MIDI ファイルを変換してみましょう。


※ この機能は、Windows のみです。

- 1 CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブに入れます。
- 2 Sound it! のファイル・メニューから **MIDI データの読み込み** を選択します。
- 3 オーディオ・ファイルに変換する際のサンプリング・レートを指定します。



- 4 **D:\¥VSC3¥SONGS** フォルダ内にある **88P_ORCH** (MIDI ファイル) を選択します。
 - ※ ドライブ名「D:」は、お使いの環境によって異なる場合があります。CD-ROM のドライブ名にあわせてください。
 - ※ 読み込み可能な MIDI ファイルは、スタンダード MIDI ファイル Format0 または Format1 (*.mid) です。
- 5 [開く] をクリックすると、変換が始まります。
- 6 変換が終了するとウェーブが表示されます。



- 7 ツールバーの  をクリックして、オーディオ・ファイルを再生します。

Sound it! を終了する

Sound it!を終了するには**ファイル**・メニューから、**Sound it!**の終了をクリックします。

Sound it! ヘルプについて

■ Windows

Sound it! ヘルプでは、Sound it! の使い方を詳しく説明しています。ヘルプは以下の方法で見ることができます。

- スタート・ボタンをクリックし、**プログラム**（Windows XP では、**すべてのプログラム**） | **Sound it! 3.0 LE** | **Sound it! 3.0 Help** をクリックします。
- Sound it! を起動し、**ヘルプ**・メニューから**ヘルプの起動**をクリックします。

※ Sound it! 3.0 LE のヘルプではなく、Sound it! 3.0 のヘルプが表示されます。

■ Macintosh

- Sound it! を起動し、**ヘルプ**・メニューから**ヘルプの起動**をクリックします。

Sound it! のオンライン・マニュアルについて

付属 CD-ROM の以下のフォルダに収録されているオンライン・マニュアルもあわせてご覧ください。

Soundit3¥Online_M¥Soundit30LE.pdf

Sound it! のお問い合わせについて

Sound it! に関する質問は、株式会社インターネットにて受け付けております。詳しくは『**Sound it! のお問い合わせ窓口について**』（P.76）をご覧ください。



Sound it! 3.0 LE と Sound it! 3.0 の違い

Windows Sound it! 3.0 LE には CD への書き込み機能がありません。

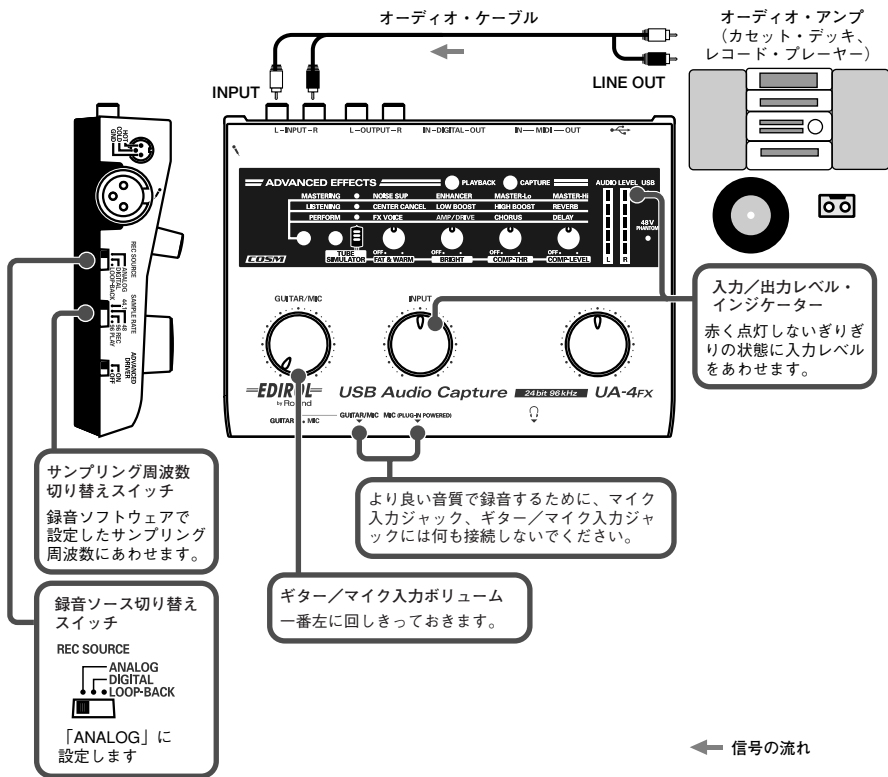
用途別の接続方法

この章では UA-4FX のさまざまな接続方法を用途別に説明します。

※ 他の機器と接続するときは、誤動作やスピーカーなどの破損を防ぐため、必ずすべてのオーディオ機器の音量を絞った状態で接続を行ってください。

カセット・テープやレコードの音をパソコンにとりこむ

カセット・テープやレコードなどのオーディオ機器からのアナログ出力をパソコンに取り込んで録音することができます。



● サンプリング周波数切り替えスイッチ

録音に使用するソフトウェアで設定したサンプリング周波数にあわせて。

サンプリング周波数切り替えスイッチを切り替えた後は、USB ケーブルを接続しなおしてください。

Sound it! をお使いの場合は、『Sound it! を使う』(P.9) もあわせてお読みください。

● 録音ソース切り替えスイッチ

ANALOG に設定します。

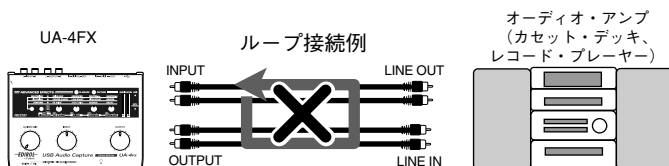
録音ソース切り替えスイッチを切り替える場合は、接続されているモニター・スピーカーなどのボリュームを絞ってください。

● 入力／出力レベル・インジケータ

入力レベルを調整します。

入力／出力レベル・インジケータが赤色に点灯しないぎりぎりまで、入力ボリュームでレベルを大きくすると、より高音質で録音することができます。

ループ接続に気を付けてください



UA-4FXと、入力音を出力にスルーする機器（録音中のMD / DAT など）を上図のように接続した場合、UA-4FX とその機器の間を音がループして発振してしまい、予期しない大きな音量になってしまうことがあります。

このような接続は、誤動作をしたりスピーカーなどを破損する恐れがありますのでご注意ください。

Sound it! を使って MP3 や CD を作ってみよう！

UA-4FX に付属のオーディオ編集ソフトウェア **Sound it!** を使って、オーディオ・ファイルを作成することができます。

Sound it! で作成できるオーディオ・ファイル

Sound it! で読み込み、保存することができるファイル形式は、主に次のとおりです。

- WAV (.wav)

Windows で標準的に使用されているファイル形式です。

- AIFF (.aif / .aiff)

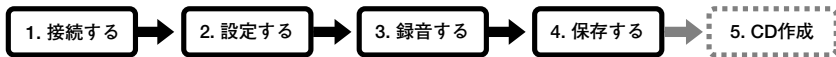
Macintosh で標準的に使用されているファイル形式です。

- MP3 (.mp3)

CD 並みの音質を維持しながらファイル・サイズを約 1/10 に圧縮することができます。

※ その他のファイル形式については、『**ファイルを開く**』(P.20) をご覧ください。また、Sound it! のヘルプも併せてご確認ください。

作業のながれ



1. 接続する

『カセット・テープやレコードなどのオーディオ機器からのアナログ出力をパソコンに取り込んで録音することができます。』(P.23) を参照して UA-4FX とパソコンを接続します。

2. 設定する

Sound it! を起動して (P.13)、『オーディオ・デバイスを選択する』(P.14) を参考にしてオーディオ・デバイスの設定を行います。

3. 録音する

『録音する』(P.16) を参考にして録音をはじめます。

4. 保存する

録音が終わったら、『**Sound it! を終了する**』(P.22) を参考にしてファイルを保存します。

5. CD を作成する

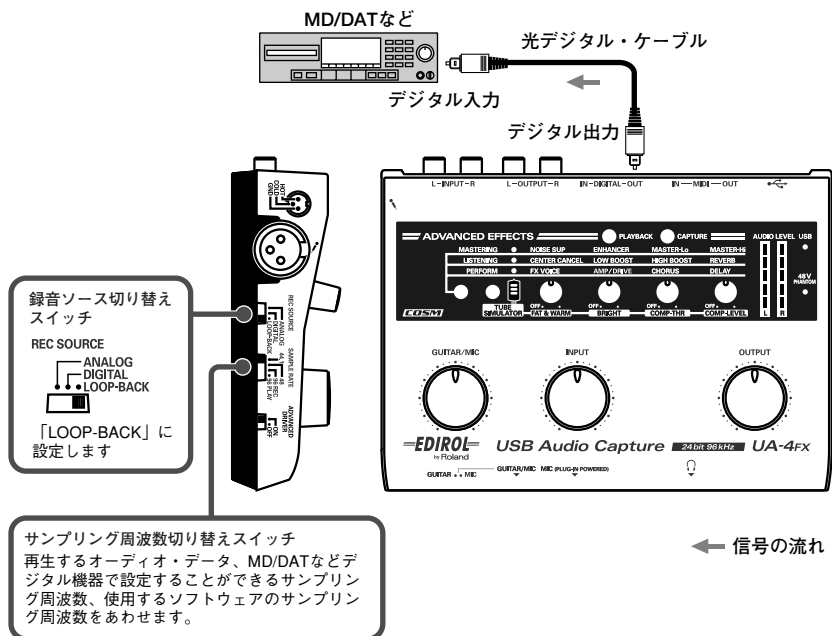
手順 4. で作成したファイルをもとに CD を作成することができます。

CD を作成するためには、CD ライティング・ソフトが必要です。別途ご用意ください。使い方などは、お使いの別途 CD ライティング・ソフトの取扱説明書をお読みください。

※ CD、レコード、ミュージックテープ、放送など他人の著作物から録音したものは、法律により個人で楽しむ以外の利用を禁じられています。

パソコンのデータを MD や DAT に録音する

パソコンにあるオーディオ・データを MD や DAT などのデジタル機器で録音することができます。



● サンプル周波数切り替えスイッチ

再生するオーディオ・データと録音するソフトウェアのサンプリング周波数にあわせませす。

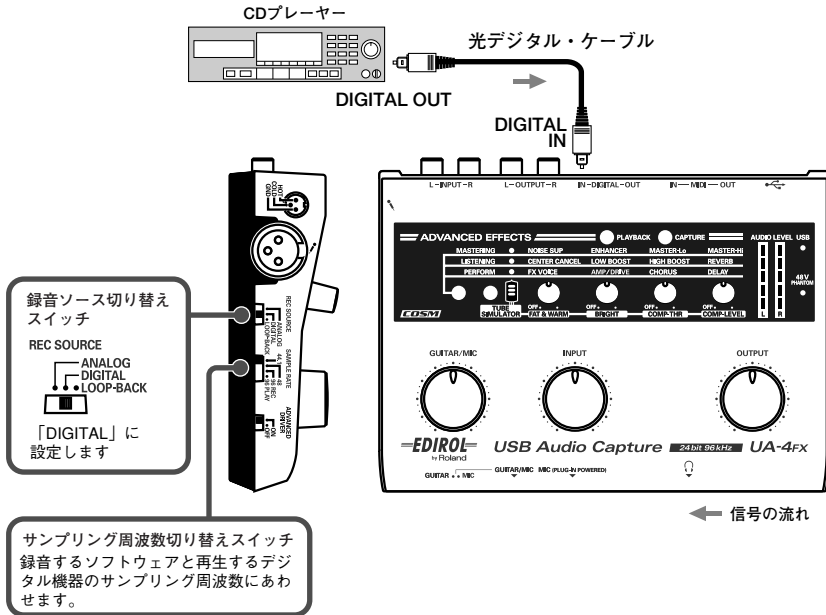
サンプリング周波数切り替えスイッチを切り替えた後は、USB ケーブルを接続しなさせていただきます。

● 録音ソース切り替えスイッチ

LOOP-BACK に設定します。LOOP-BACK に設定しておく、アナログの各入力端子からは信号が入らなくなります。そのため、パソコンからの音だけがデジタル出力コネクタに出力されるようになり、ノイズなどが混じらなくなります。

録音ソース切り替えスイッチを切り替える場合は、接続されているモニター・スピーカーなどのボリュームを絞ってください。

CD / MD / DAT の出力をデジタルでパソコンに取り込む



● サンプリング周波数切り替えスイッチ

録音に使用するソフトウェアで設定したサンプリング周波数にあわせます。通常は、DAT の場合は 48kHz または 44.1kHz、MD や CD の場合は 44.1kHz に設定します。詳しくは、お使いのデジタル機器やソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。サンプリング周波数切り替えスイッチを切り替えた後には、USB ケーブルを接続しなおしてください。Sound it! をお使いの場合は、『Sound it! を使う』(P.9) を参照してください。

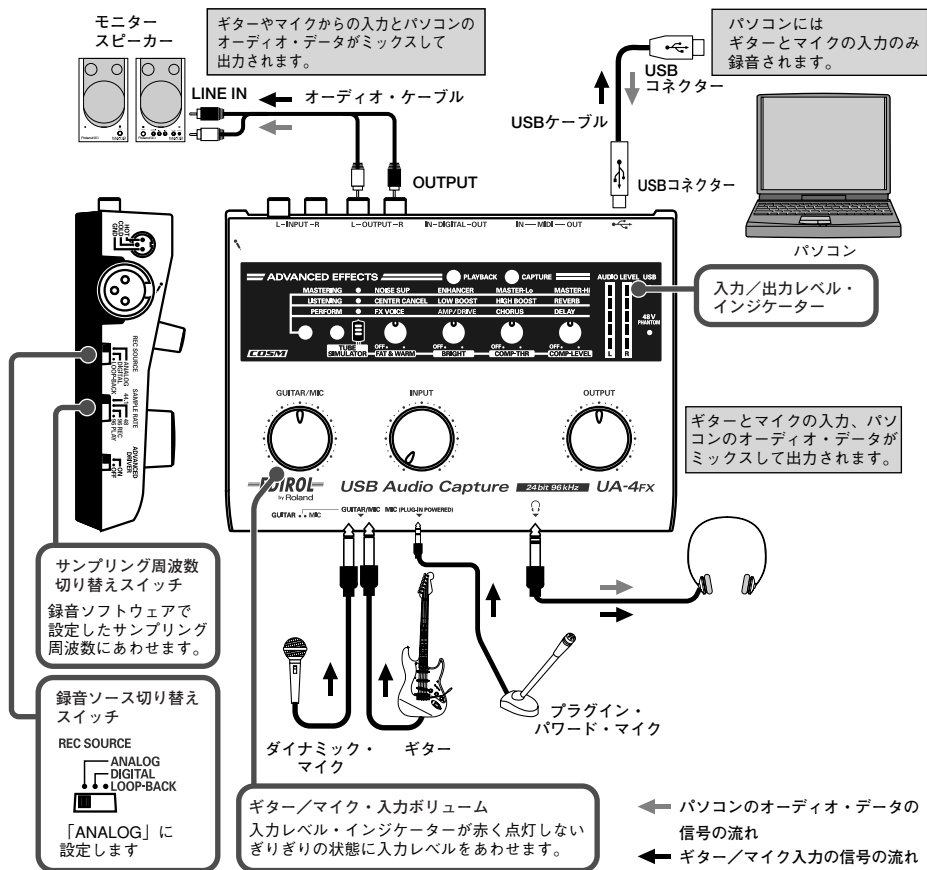
● 録音ソース切り替えスイッチ

DIGITAL に設定します。録音ソース切り替えスイッチを切り替える場合は、接続されているモニター・スピーカーなどのボリュームを絞ってください。

- ※ UA-4FX は **SCMS** に対応しています。CD から録音した MD など、著作権保護のための符号が記録された曲をデジタル入力コネクタから入力した場合、UA-4FX はこれをパソコンに録音することはできません(ライン出力ジャック、ヘッドホン・ジャックからは出力されます)。
- ※ ライン入力ジャックやマイク入力ジャック、ギター/マイク入力ジャックからの入力と、デジタル入力コネクタから入力した信号を、ミックスして録音することはできません。
- ※ 録音ソース切り替えスイッチが **DIGITAL** に設定されている場合でも、デジタル入力コネクタから信号が入ってこない場合には、**ANALOG** に設定されているときと同じ動作になります。

ギターやマイクを録音する

パソコンのオーディオ・データに合わせてギターを演奏したり、マイクからの音声をシーケンサーなどのソフトウェアで録音すると、パソコンにはギター／マイクのみが録音されます。



● サンプリング周波数切り替えスイッチ

録音に使用するソフトウェアで設定したサンプリング周波数にあわせて。
サンプリング周波数切り替えスイッチを切り替えた後は、USB ケーブルを接続しなおしてください。

Sound it! をお使いの場合は、『Sound it! を使う』(P.9) も併せてお読みください。

※ 設定できる周波数は、お使いのソフトウェアによって異なります。詳しくはお使いのアプリケーションの取扱説明書をご覧ください。また、選択できる周波数は、OSによっても異なります。

- **録音ソース切り替えスイッチ**

ANALOG に設定します。

録音ソース切り替えスイッチを切り替える場合は、接続されているモニター・スピーカーなどのボリュームを絞ってください。

- **入力切り替えスイッチ**

マイクを接続する場合には **MIC**、ギターを接続する場合には **GUITAR** に設定します。

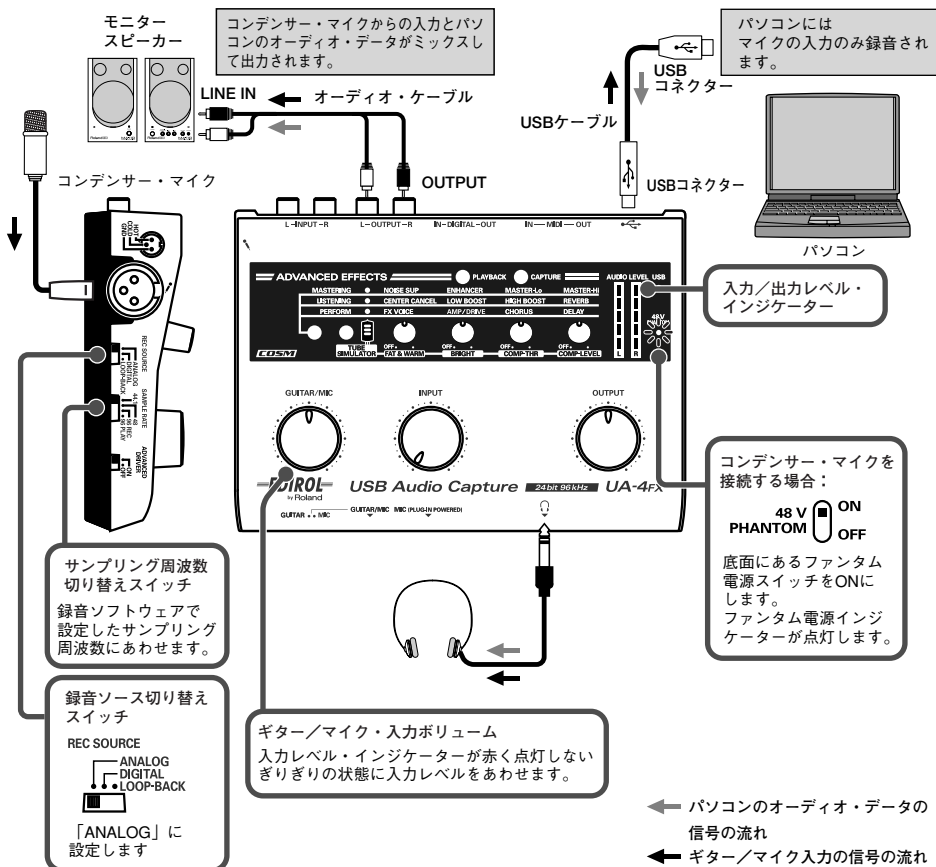
- **ギター／マイク入力ボリューム**

入力レベルを調節します。入力／出力レベル・インジケーターが赤色に点灯している場合は、ボリュームで入力レベルを下げてください。インジケーターが点灯しないぎりぎりまで、ボリュームでレベルを大きくすると、より高音質で録音できます。

※ マイクを使って録音する場合、マイクとスピーカーの位置によっては、ハウリング音（キーンという音）が出ることがあります。その場合は、以下のように対処してください。

1. マイクの向きを変える / 2. マイクをスピーカーから遠ざける / 3. 音量を下げる

ファンタム電源対応のコンデンサー・マイクで録音する



● サンプリング周波数切り替えスイッチ

録音に使用するソフトウェアで設定したサンプリング周波数にあわせます。
サンプリング周波数切り替えスイッチを切り替えた後は、USBケーブルを接続しなおしてください。
Sound it! をお使いの場合は、『Sound it! を使う』(P.9) も併せてお読みください。

※ 設定できる周波数は、お使いのソフトウェアによって異なります。詳しくはお使いのアプリケーションの取扱説明書をご覧ください。また、選択できる周波数は、OSによっても異なります。

● 録音ソース切り替えスイッチ

ANALOG に設定します。

録音ソース切り替えスイッチを切り替える場合は、接続されているモニター・スピーカーなどのボリュームを絞ってください。

● ファンタム電源スイッチ

ON にします。

フロント・パネルのファンタム電源インジケータが点灯します。

● ギター／マイク入力ボリューム

入力レベルを調節します。入力／出力レベル・インジケータが赤色に点灯している場合は、ボリュームで入力レベルを下げてください。インジケータが点灯しないぎりぎりまで、ボリュームでレベルを大きくすると、より高音質で録音できます。

※ マイクを使って録音する場合、マイクとスピーカーの位置によっては、ハウリング音（キーンという音）が出ることがあります。その場合は、以下のように対処してください。

1. マイクの向きを変える / 2. マイクをスピーカーから遠ざける / 3. 音量を下げる

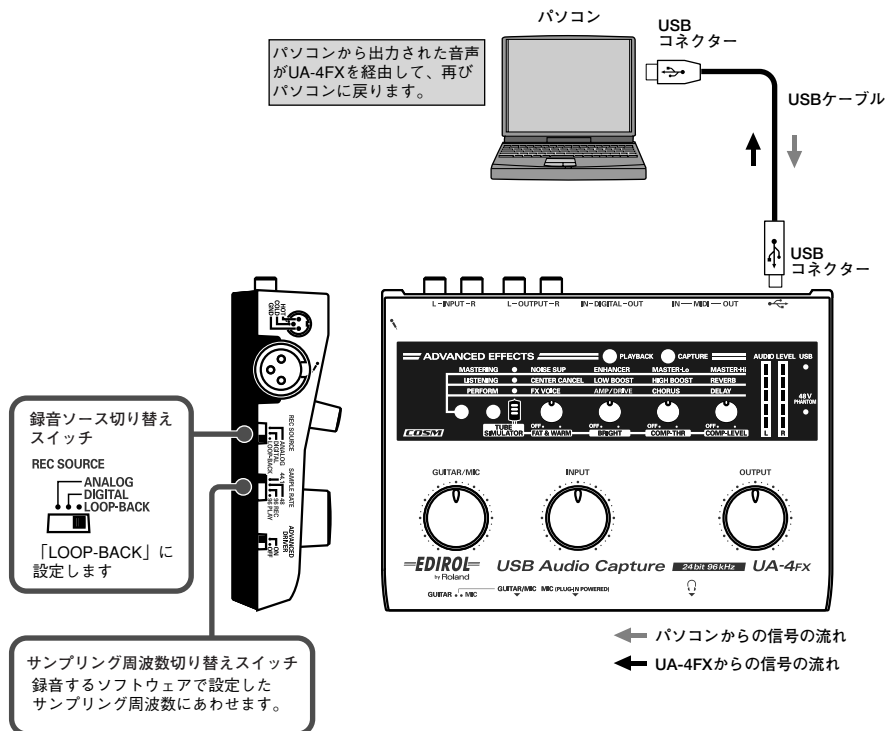
マイクの種類

マイクには、ダイナミック・マイクとコンデンサー・マイクがあり、UA-4FX ではどちらのマイクも接続することができます。また、パソコンのマイク端子に接続するモノラルの小型コンデンサー・マイクであるプラグイン・パワード・マイクにも対応しています。

マイク入力ジャック（プラグイン・パワード・マイク）へ接続するマイクは、必ずプラグイン・パワード対応のモノラル・マイクをお使いください。対応していないマイクや一般のステレオ・ミニ・タイプのプラグを接続すると回路を破損する恐れがあります。

インターネット・ラジオなどのパソコン・サウンドを録音する

インターネット・ラジオなどの音をパソコンに取り込むことができます。



● サンプリング周波数切り替えスイッチ

録音するソフトウェアのサンプリング周波数にあわせませす。

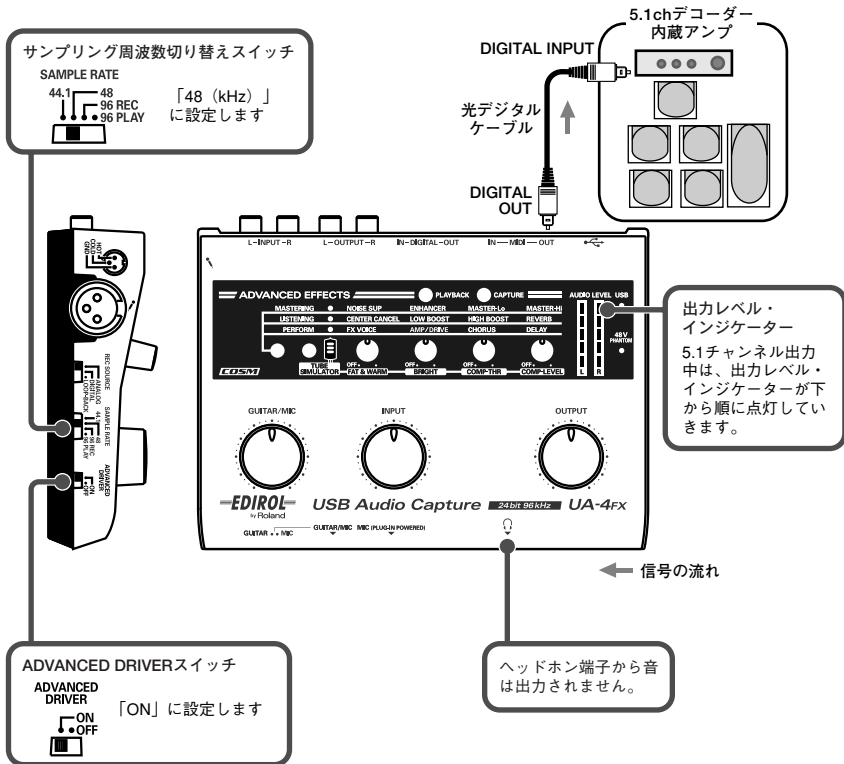
サンプリング周波数切り替えスイッチを切り替えた後は、USB ケーブルを接続し
なおしてください。

● 録音ソース切り替えスイッチ

LOOP-BACK に設定します。

録音ソース切り替えスイッチを切り替える場合は、接続されているモニター・スピー
カーなどのボリュームを絞ってください。

パソコンで 5.1ch サラウンド再生



UA-4FXの5.1チャンネル・デジタル出力を5.1チャンネルデコーダー内蔵アンプで再生することができます。

- 5.1チャンネルで再生中は、オーディオ信号を録音することができません。

この機能は、Windowsのみ対応しています。Windowsでこの機能を使用するためには、WinDVDなどのDVD再生ソフトウェアが必要です。別途ご用意ください。設定方法など詳しくはお使いのソフトウェアの取扱説明書を参照してください。

※ WinDVD 4以降でお使いになることを推奨します。

エフェクトをかける

UA-4FXのアドバンス・エフェクトの機能を使うと、手軽に音質を変化させることができ、オーディオ編集などに大変便利です。また、サウンド再生時やマイクやギターなどの録音時に威力を発揮する4タイプのデジタル・エフェクトを搭載し、4つのつまみを使って簡単に音づくりをすることができます。マイクやギター、ライン入力やデジタル入力からの音声にエフェクトをかけてお楽しみいただけます。

※ 付属の日本語パネル・シートをあらかじめパネルに貼っておくと便利です。多彩なエフェクトの効果がわかりやすくなります。

『用途別の接続方法』(P.23)を参考にして、あらかじめ接続や基本的な設定を完了させておいてください。

アドバンス・エフェクト (3つの特長)

アドバンス 1 4とおりの使い方

1. 真空管 (TUBE) アンプ・シミュレーター

真空管アンプをシミュレートする COSMエフェクトです。
真空管特有の太くて暖かいサウンドをシミュレートします。

2. マスタリング (MASTERING: アナログ・ソースをデジタル化)

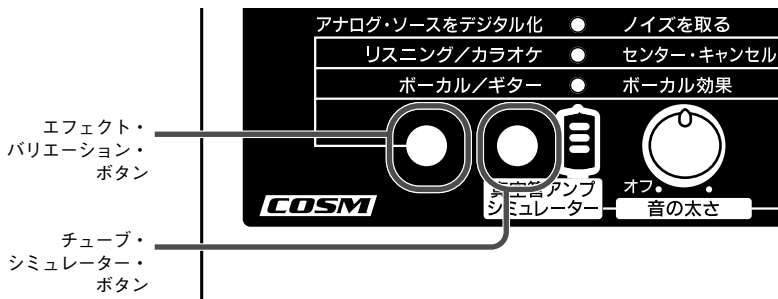
カセット・テープなどの古いアナログ・ソースがデジタルの力でよみがえります。

3. リスニング (LISTENING: リスニング/カラオケ)

リスニングに最適です。パソコンが AV 機器になり、カラオケも楽しめます。

4. パフォーマンス (PERFORM: ボーカル/ギター)

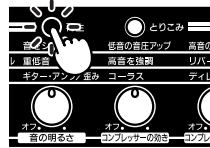
迫力のギター・サウンド、七色のナレーション・ボイスが手軽に楽しめます。



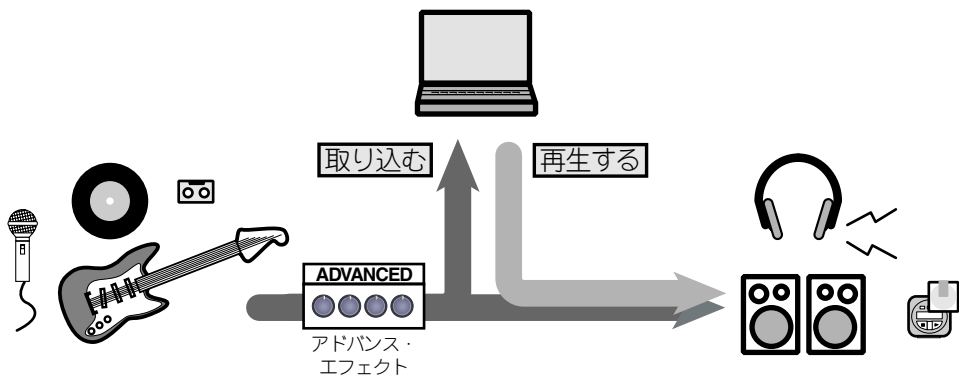
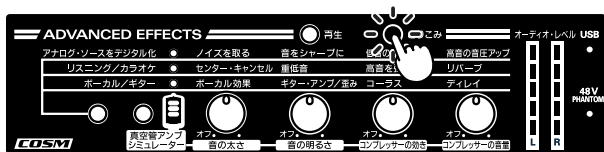
アドバンス 2 4つのエフェクトつまみで簡単に音づくり



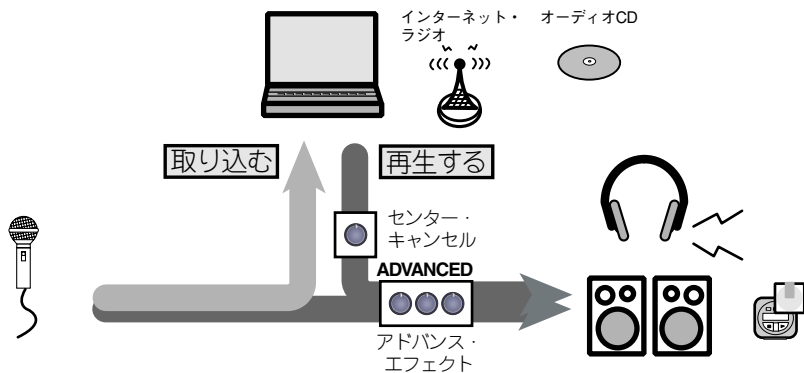
アドバンス 3 録音（とりこみ）側にも再生側にもエフェクトをかけられる



録音側にエフェクトをかける場合



再生側にエフェクトをかける場合

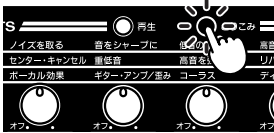


エフェクトのかけ方

- 1 キャプチャー（とりこみ）ボタンまたはプレイバック（再生）ボタンを押します。



キャプチャー・ボタンまたはプレイバック・ボタンのいずれかがオン（点灯）になっていないと、エフェクトがかかりません。また、両方のボタンを同時にオンにすることはできません。



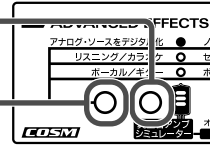
録音するための音にエフェクトをかけたいときには、キャプチャー・ボタンをオンにします。



再生する音にエフェクトをかけたいときには、プレイバック・ボタンをオンにします。

- 2 チューブ・シミュレーター・ボタンまたはエフェクト・バリエーション・ボタンでお好みのエフェクトを選びます。

チューブ・シミュレーター・ボタン
エフェクト・バリエーション・ボタン



- 3 エフェクトつまみでエフェクトのかかり具合を調整します。

エフェクトつまみを OFF の位置に合わせると、エフェクトはかかりません。エフェクトつまみを少しずつ右に回していき、お好みの状態に調整してください。

- ※ チューブ・シミュレーターは、エフェクトつまみを OFF にしても、真空管らしいファットなニュアンスは残ります。



- ※ エフェクトを強くかけすぎると音が歪んでしまう場合があります。このときは、入力レベルを下げてみてください。また、エフェクトつまみを左に回してエフェクトのかかり具合を小さくしてください。

エフェクトを使ってみよう

チューブ・シミュレーター

チューブ・シミュレーター・
ボタンを押します。



真空管アンプをシミュレートする COSM エフェクトです。
真空管特有の太くて暖かいサウンドをシミュレートします。

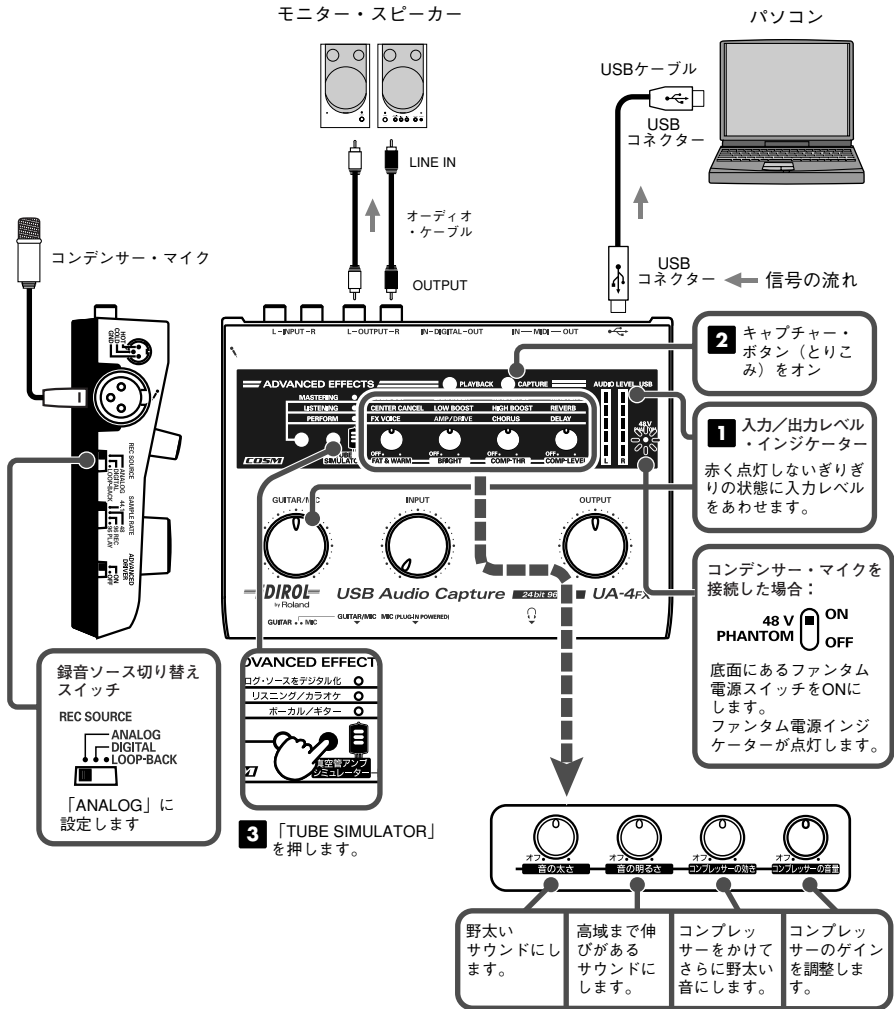


エフェクト	効果
音の太さ (FAT & WARM)	真空管特有の暖かくて太いサウンドをシミュレートします。
音の明るさ (BRIGHT)	抜けの良い、明るい真空管サウンドをシミュレートします。
コンプレッサー の効き (COMP-THR)	コンプレッサーの効きはじめるレベルを設定します。 右に回すほど、コンプレッサーが深く効き、より太い音が得られます。
コンプレッサー の音量 (COMP-LEVEL)	コンプレッサーの出力レベルを設定します。 右に回すほど、LEVEL が上がります。

※ エフェクトの効果を大きく（つまみを右に）しすぎると、音が歪むことがあります。
この場合は、入力信号のレベルを下げたり、再生している外部オーディオ機器のボリュームやパソコンのボリュームなどを下げてみてください。

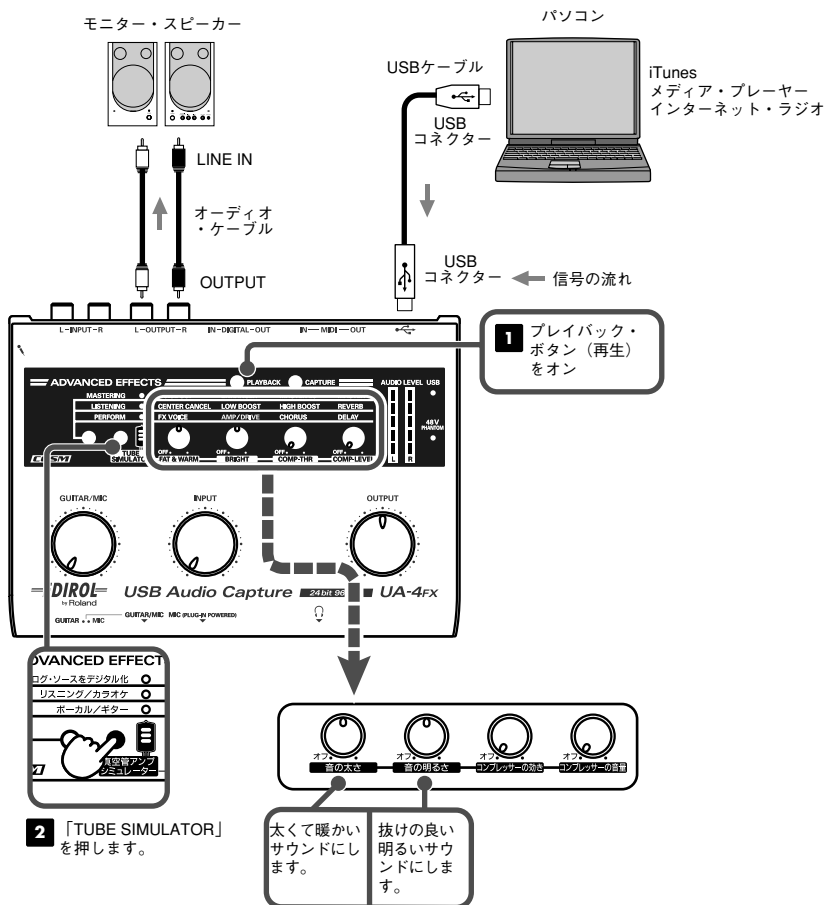
チューブ・シミュレーターを使ってみよう (1)

真空管マイク・プリアンプの野太いサウンドでボーカルを録音してみましょう。



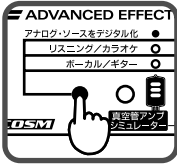
チューブ・シミュレーターを使ってみよう (2)

真空管オーディオ・アンプの暖かみのあるサウンドで、パソコン・オーディオを楽しんでみましょう。

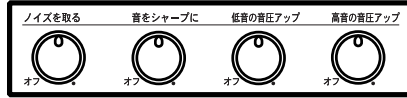


マスタリング・エフェクト (MASTERING)

「MASTERING」
に設定します



カセット・テープやレコードなどの音をパソコンへ取り込んだり、パソコンに入っているオーディオ・ファイルの音質をよくするときに使うエフェクトです。

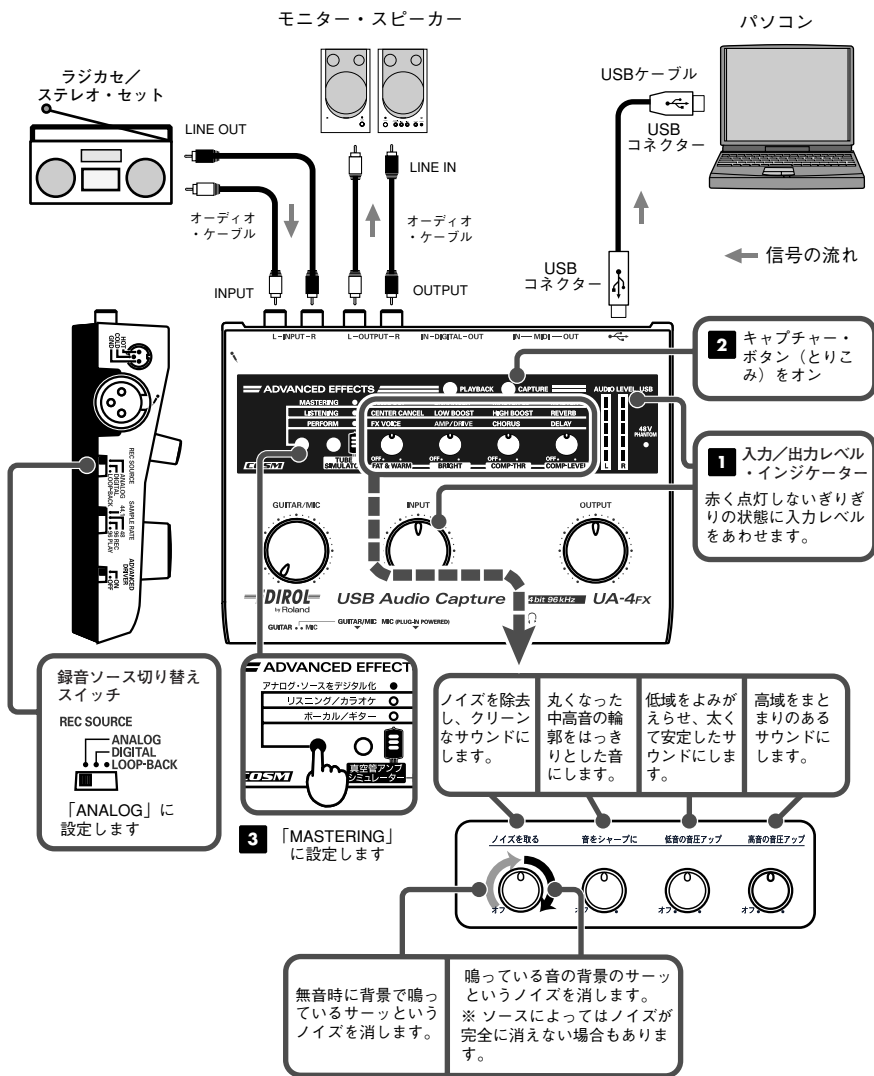


エフェクト	効果
ノイズをとる (NOISE SUP)	無音時に背景で鳴っている小さな音やノイズをカットしたり、アナログ・ソースのノイズを除去したりします。それにより、クリーンなサウンドを作ることができます。 ※ 極端に小さな音量の入力信号に、このエフェクトをかけると音がまったく聞こえなくなる場合があります。
音をシャープに (ENHANCER)	音の輪郭をはっきりさせたり、音の高い部分を強調することにより、はっきりとしたサウンドを作ることができます。
低音の音圧アップ (MASTER-Lo)	低域 (220Hz 以下) を、歪みを抑え、太くて安定した、まとまりのあるサウンドにします。
高音の音圧アップ (MASTER-Hi)	高域 (2kHz 以上) を、歪みを抑え、安定した、まとまりのあるサウンドにします。

※ エフェクトの効果を大きく (つまみを右に) しすぎると、音が歪むことがあります。この場合は、入力信号のレベルを下げたり、再生している外部オーディオ機器のボリュームやパソコンのボリュームなどを下げてください。また、エフェクトつまみを左に回してエフェクトのかかり具合を小さくしてください。

マスタリング・エフェクトをつかってみよう

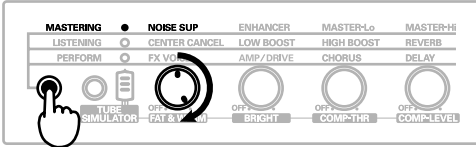
カセット・テープの音を CD クオリティに変換して、パソコンに保存してみましょう



エフェクト設定例

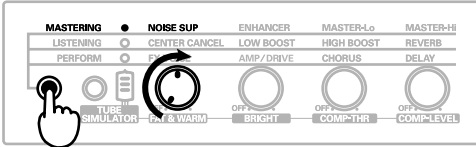
カセット・テープのノイズをカットする

MASTERING



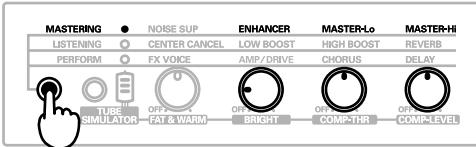
周りの雑音を入れないように録音する

MASTERING



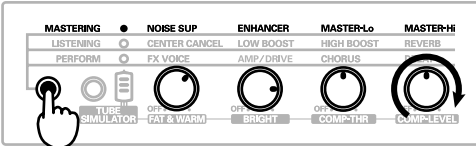
はっきりしないマイクの音をシャープな音にする

MASTERING



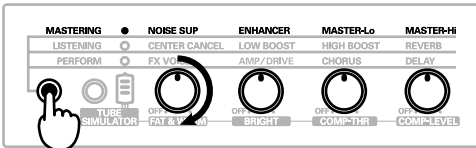
ライブ音声をはっきり、くっきりした音にする

MASTERING



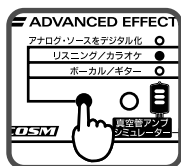
音の悪い MP3 をクリアな音にする

MASTERING

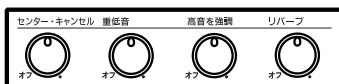


リスニング・エフェクト (LISTENING)

「LISTENING」
に設定します



CD やインターネット・ラジオ、MP3 を再生したときの音などに効果のあるエフェクトです。



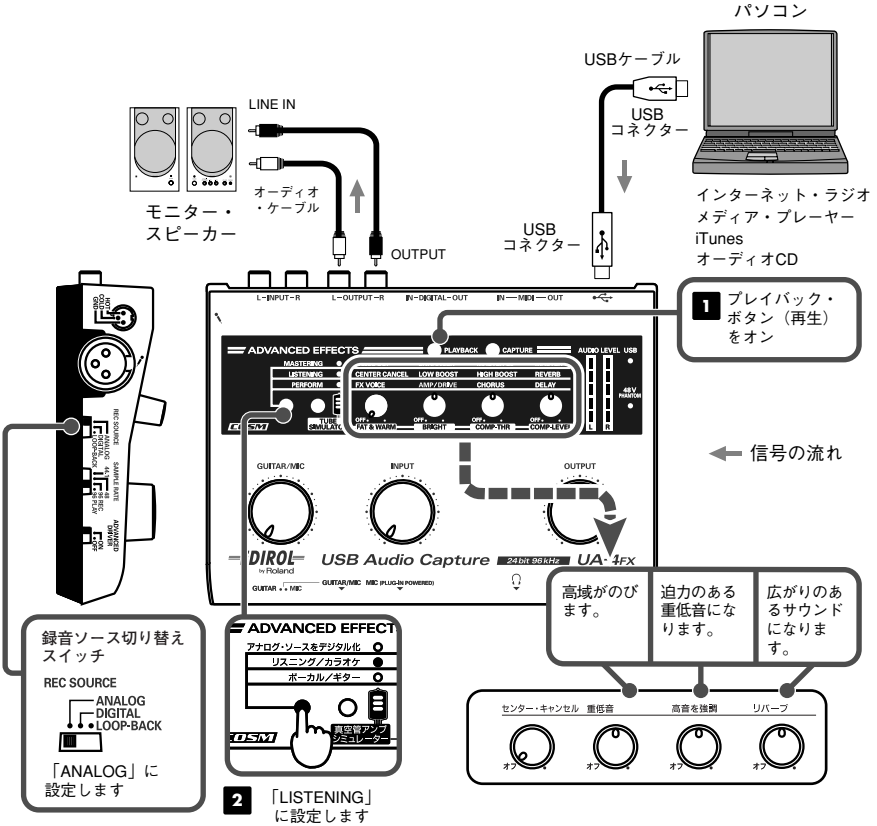
エフェクト	効果
センター・キャンセル (CENTER CANCEL)	CD などのステレオソースを入力したとき、中央に定位した音を消し、カラオケを作ったりすることが出来ます。エフェクトつまみを OFF から最大（右いっぱい）に回していくに従って、中央定位が消える音域が大きくなります。 ※ モノラルの音に、このエフェクトをかけると音が聞こえなくなる場合があります。 ※ プレイバック・ボタンがオンのときは、INPUT に対してのセンター・キャンセルは効きません。
重低音 (LOW BOOST)	音の低い部分を持ち上げて低音を補って、迫力のあるサウンドにします。
高音を強調 (HIGH BOOST)	音の高い部分を持ち上げて高音を補って、クリアなサウンドにすることが出来ます。
リバーブ (REVERB)	残響音をつけて、広がりのあるダイナミックなサウンドに変化させます。

※ エフェクトの効果を大きく（つまみを右に）しすぎると、音が歪んでしまう可能性があります。この場合は、使用しているアプリケーションのボリュームを下げてみてください。

また、エフェクトつまみを左に回してエフェクトのかけ具合を小さくしてください。

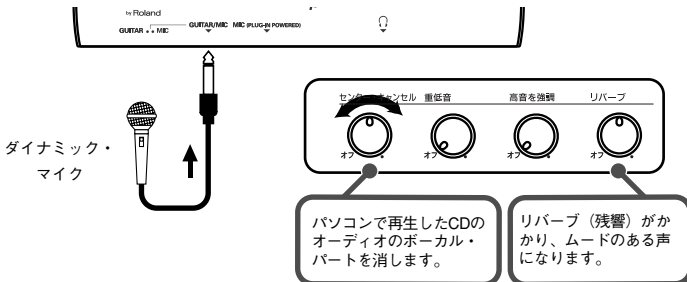
リスニング・エフェクトを使ってみよう

パソコンがオーディオ機器に早変わりします。インターネット・ラジオやメディア・プレーヤー、iTunesなどの音声にエフェクトをかけることができます。



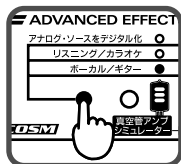
カラオケを試みよう

パソコンで再生された音にのみ、センターキャンセルがかかります。

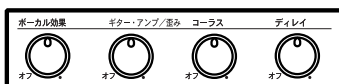


パフォーマンス・エフェクト

「PERFORM」
に設定します

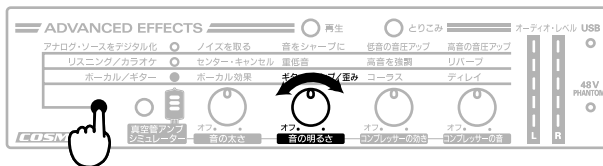


マイク、ギターを録音するときに効果のあるエフェクトです。



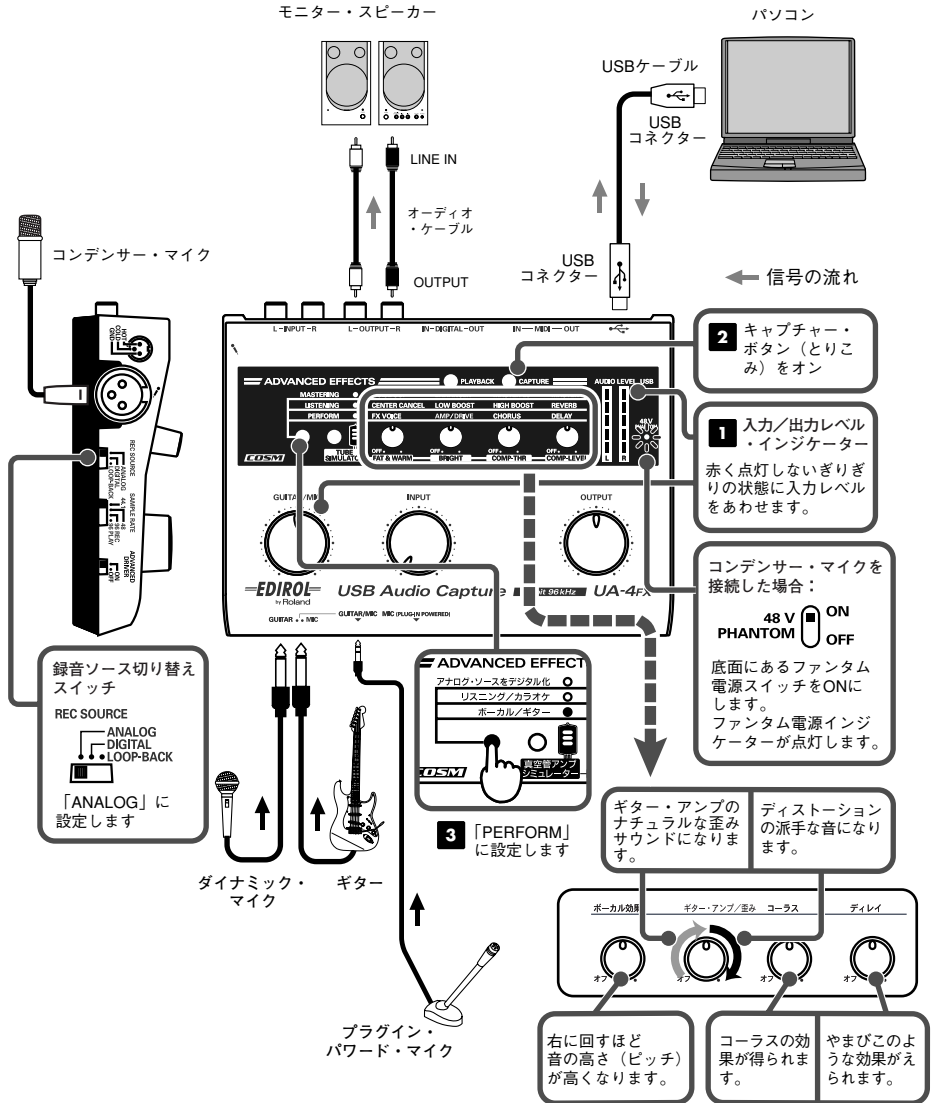
エフェクト	効果
ボコーラル効果 (FX VOICE)	音のピッチ（高さ）を変えて、まったく違うキャラクターにすることが出来ます。 エフェクトつまみを OFF から最大（右いっぱい）に回していくに従って、ピッチがあがっていきます。
ギターアンプ /歪み (AMP/DRIVE)	ギター・アンプ・シミュレーターによるナチュラルな歪みから、迫力のディストーションまで、幅広いギター・サウンドを作ることができます。 エフェクトつまみを OFF から真ん中の位置にあわせると、ナチュラルなアンプの歪みの音になります。真ん中から最大（右いっぱい）に回して行くと、ディストーションの派手な歪みの音に変化していきます。
コーラス (CHORUS)	音に厚みと広がりをつけ、ステレオ感豊かなサウンドにすることが出来ます。
ディレイ (DELAY)	遅れた音の繰り返しを加えて、音に厚みつけたり、やまびこのような効果をつけたりします。

- ※ エフェクトの効果を大きく（つまみを右に）しすぎると、音が歪んでしまう可能性があります。この場合は、入力信号のレベルを下げたり、再生している外部オーディオ機器のボリュームやパソコンのボリュームなどを下げてみてください。また、エフェクトつまみを左に回してエフェクトのかかり具合を小さくしてください。
- ※ パフォーマンス・エフェクトをオンにすると、ギターやマイクのノイズを抑えるためにノイズ・サプレッサーがはたらきます。エフェクト・パリエーション ボタンを押しながらギター・アンプ/歪み (AMP/DRIVE) つまみを回して、ノイズ・サプレッサーのレベルを調整することができます。左に回すと、レベルを下げる事ができます。



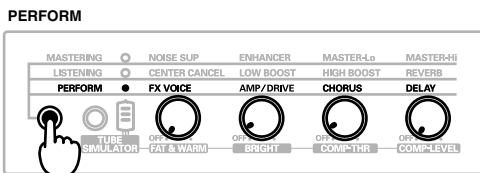
音に変化をつけて楽しもう

ギターやマイクの音に効果をつけて楽しんでみましょう。

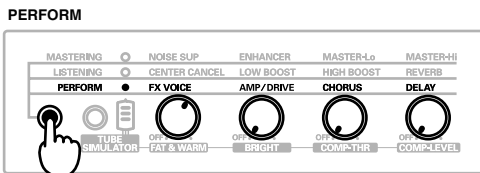


エフェクト設定例

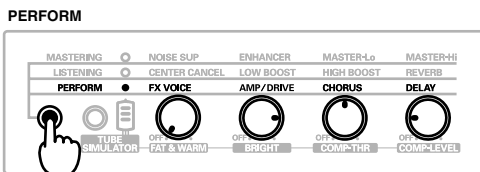
拡声器でしゃべっているような、少し歪んだ声になります



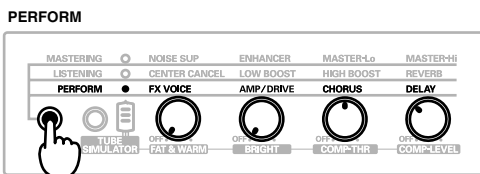
匿名でインタビューされている人のような声になります



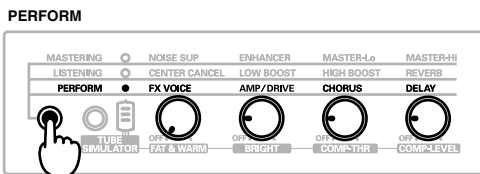
ギター・ソロに心地良いセッティングです



クリーン・ギターに心地よいセッティングです。



渋めのブルース・ギター・サウンドです。



Virtual Sound Canvas (Windows)

Virtual Sound Canvas (VSC3) とは？

Virtual Sound Canvas (VSC3)

バーチャル・サウンド・キャンバス Ver3 (VSC3) は、MIDI ソフトウェア・シンセサイザーです。外部音源を用いずに、お手持ちのコンピューターだけで、MIDI データを再生したり MIDI データを WAVE データに変換することができます。また、付属ソフトウェア Sound it! の MIDI データの読み込み (MIDI → WAVE 変換) 機能を使用する場合は、VSC3 が必要になります。

※ Virtual Sound Canvas は Windows 版のみ同梱しています。

特長

- GM1 / GM2 システムおよび、ローランドの音源の共通仕様である GS フォーマットに対応しています。また、ローランドの SC-55(mkII) や SC-88、SC-88Pro など多くの GS 音源と音色互換性があり、これらの機種専用のミュージックデータの演奏もできます (ただし、仕様の違いによりハードウェア音源と演奏表現が異なる場合もあります)。
- 16 パート、最大 128 ボイスのマルチ・ティンバー MIDI 音源です。また、902 音色 + 26 ドラム・セット (SC-88Pro Map 対応音色セット使用時) が内蔵されていますので、壮大なアンサンブル演奏が可能です。(SC-55 Map 対応音色セットや SC-88 Map 対応音色セットに切り替えることもできます。)
- オーディオ・ファイル変換機能を装備し、スタンダード MIDI ファイルを簡単にオーディオ・ファイルに変換できます。
- プレーヤー・ウィンドウにより、ミュージックデータの演奏はもちろんのこと、演奏のテンポやキーの変更も可能です。また、お気に入りの曲を登録したソングリストを保存することもできます。
- コントローラー・ウィンドウで、各パートの音色、音量などの変更や、ミュートの操作が簡単に行えます。

インストール方法

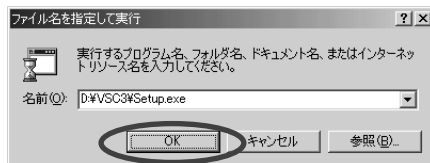
- CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブに入れます。
Windows の **スタート** ボタンをクリックし、表示されたメニューから **ファイル名を指定して実行** をクリックします。

※ 他のソフトウェアが既に起動している場合は、以降の操作を行う前にそれらをすべて終了してください。

- 表示されたダイアログの名前の欄に、「**D: ¥ VSC3 ¥ Setup.exe**」と入力して **[OK]** をクリックします。

※ ドライブ名 **[D:]** は、お使いの環境によって異なる場合があります。CD-ROM のドライブ名にあわせてください。

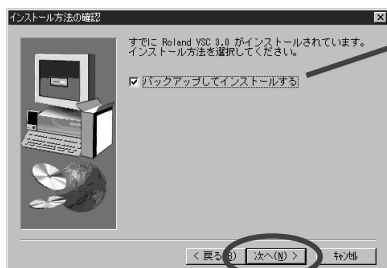
または **[参照]** をクリックして CD-ROM ドライブの **VSC3** フォルダにある **Setup (.exe)** ファイルを選択し、**[開く]** をクリックし、**[OK]** をクリックします。



- 「ようこそ」ダイアログが表示されたら、**[次へ]** をクリックします。

- 使用許諾契約に同意するかどうかのメッセージが表示されます。内容をご確認のうえ、同意される場合は、**[はい]** をクリックしてください。**[いいえ]** をクリックするとインストールは中断されます。

- お使いのパソコンに VSC がすでにインストールされている場合は、次のような確認のダイアログが表示されます。表示されない場合は、**操作 6** へお進みください。



コンピューターに VSC がインストールされていた場合は、再インストールするためのバックアップディスクや CD-ROM が付属しているかどうかを確認してください。バックアップ用のディスクがない場合は、**[バックアップしてインストールする]** にチェックをして、**[次へ]** をクリックしてください。インストール後にデスクトップ上に **[VSC Restore]** というアイコンが作られます。このアイコンをダブル・クリックすると元の状態に戻すことができます。バックアップ用のディスクをお持ちの場合は、チェックをはずして **[次へ]** をクリックしてください。

- 6 次のダイアログが表示されます。チェックを入れた状態で【次へ】をクリックしてください。



Windowsの「エクスプローラ」などで.midの拡張子のついたファイルを、VSCで開く場合にチェックします。
(後で他のソフトウェアをインストールした場合などに、.midファイルとVSCの関連付けが無効になることがあります。)

- 7 インストール先が表示されます。そのままであれば【次へ】をクリックします。インストール先のフォルダを変更したい場合は、【参照】をクリックして指定してください。



- 8 インストール確認のダイアログが表示されます。表示される内容が正しければ【次へ】をクリックします。インストールが始まります。

Windows XP の場合：

ドライバ署名オプション・ダイアログの設定が「無視」になっていないと、「！」または「×」マークのダイアログが表示されることがあります。【続行】ボタンが表示されている場合は、【続行】をクリックしてインストールを続行します。続行できない場合は【OK】をクリックしてインストールを一旦終了させ、ドライバ署名オプションを「無視」に設定した後、もう一度手順 1 からやり直してください。

Windows 2000 の場合：

ドライバ署名オプション・ダイアログの設定が「無視」になっていないと、「デジタル署名が見つかりませんでした」というダイアログが表示されることがあります。【はい】ボタンが表示されている場合は、【はい】をクリックしてインストールを続行します。表示されない場合は、【OK】をクリックしてインストールを一旦終了させ、ドライバ署名オプションを「無視」に設定した後、もう一度手順 1 からやり直してください。

- ※ ドライバ署名オプションの設定方法については、『ドライバ署名オプションを設定する』(P.63)を参照してください。

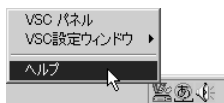
- 9 再起動の確認ダイアログが表示されます。

VSC を有効にするために、【はい、直ちにコンピュータを再起動します。】を選び、【OK】をクリックします。
これで、VSC のインストールが終わりました。
VSC の使用方法など、詳しくはヘルプを参照してください。

VSC ヘルプの参照方法

ヘルプは以下のいずれかの方法で表示できます。

- スタート・ボタンをクリックし、プログラム (Windows XP では、すべてのプログラム) | **Virtual Sound Canvas 3.2** | **Virtual Sound Canvas 3.2 ヘルプ**をクリックします。
- タスク・バーの **VSC ヘルパーアイコン**をクリックし、メニューから [ヘルプ] を選びます。



資料

ドライバの設定 (ADVANCE スイッチ ON)	P.54
ドライバのインストールと設定 (Mac OS 9).....	P.57
バックグラウンドの処理を優先する (Windows)	P.62
ドライバ署名オプションを設定する	P.63
標準ドライバ・モード (ADVANCE スイッチ OFF).....	P.64
トラブルシューティング	P.65
お問い合わせの窓口のご案内	P.76
主な仕様.....	P.79
ブロック図	P.80

ドライバの設定 (ADVANCE スイッチ ON)

オーディオのレイテンシを調整する

UA-4FX をアドバンス・モードでお使いの場合は、ドライバの設定を変更することで、オーディオのレイテンシを調整することができます。レイテンシを調整するには、ドライバの設定ダイアログでバッファ・サイズを調整します。

- ※ レイテンシとは、ソフトウェアがオーディオ・データを再生してから、実際に UA-4FX などのオーディオ・デバイスから音が聞こえるまでの遅延時間です。
- 1. 『専用ドライバの設定ダイアログの開き方』(P.54) を参考にして、**ドライバの設定**ダイアログを開きます。
- 2. ドライバのバッファ・サイズを調整します。
次の設定がレイテンシが最も短くなります。
Windows の場合:「オーディオ入出力のバッファ・サイズ」を一番左 (Min) に設定します。
Mac OS X の場合:「オーディオ入出力のバッファサイズ」を一番左 (Min) に設定します。
Mac OS 9 の場合:「Buffer Size」を一番左 (Min) に設定します。
- 3. [OK] (Mac OS X の場合は [適用]) をクリックしてダイアログを閉じます。
- 4. UA-4FX を使用しているシーケンス・ソフトウェアを再起動します。
 - ※ オーディオ機器のテスト機能を持ったシーケンス・ソフトウェアをお使いの場合は、そのテスト機能を実行してください。
- 5. シーケンス・ソフトウェアでオーディオ・データを再生します。
音切れが発生する場合には、この手順を繰り返し、**手順 2** で指定する **バッファ・サイズ** を、音切れが無くなるまで少しずつ大きく設定していきます。
 - ※ お使いのシーケンス・ソフトウェアによっては、シーケンス・ソフトウェア側のオーディオ設定の項目にも **バッファ・サイズ** や **レイテンシ** の調整機能がある場合があります。詳しくは、お使いのシーケンス・ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

専用ドライバの設定ダイアログの開き方

Windows の場合：

1. Windows の **スタート・メニュー** から **設定 | コントロールパネル** (Windows XP の場合は、Windows の **スタート・メニュー** から **コントロールパネル**) を選びます。
 2. **コントロールパネル** にある **EDIROL UA-4FX** アイコンをダブルクリックします。
EDIROL UA-4FX Driver の設定ダイアログが表示されます。
 - ※ Windows XP では、「**クラシック表示に切り替える**」をクリックして、**クラシック表示**にしてください。クラシック表示でない場合、**EDIROL UA-4FX** は表示されません。
 - ※ Windows Me では、**すべてのコントロールパネルのオプションを表示する** をクリックしてください。
- Mac OS X の場合：** **システム環境設定** を開き、**EDIROL UA-4FX** アイコンをクリックします。**EDIROL UA-4FX Driver 設定**ダイアログが表示されます。
- Mac OS 9 の場合：** お使いの ASIO 対応ソフトウェアの **オーディオ設定**ダイアログから、**ASIO コントロールパネル** を開きます。
- ※ オーディオ設定ダイアログの名称や、ASIO コントロールパネルを開く手順は、お使いのシーケンス・ソフトウェアによって異なります。詳しくは、お使いのシーケンス・ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

ASIO のバッファ・サイズを小さくする (Windows)


ASIO 対応ソフトウェアから UA-4FX をお使いの場合、バッファ・サイズをより小さくすることができます。音切れなどが発生する場合は、このチェック・ボックスのチェックをはずした状態でお使いください。

- ※ 『オーディオのレイテンシを調整する』(P.54) は、このチェック・ボックスのチェックをはずした状態で行ってください。
- 1. 『専用ドライバの設定ダイアログの開き方』(P.54) を参照して、「EDIROL UA-4FX Driver の設定」ダイアログを開きます。
- 2. 「ASIO のバッファ・サイズをより小さくする」のチェック・ボックスにチェックを入れます。
- 3. [OK] をクリックして「EDIROL UA-4FX Driver の設定」ダイアログを閉じます。

ASIO Direct Monitor を使う (Windows/Mac OS 9)

UA-4FX をアドバンス・モードでお使いの場合は、UA-4FX のダイレクト・モニターのオン/オフを、ASIO2.0 対応シーケンス・ソフトウェアからコントロールすることができます。

- 1. UA-4FX の底面にあるインプット・モニター切り替えスイッチを AUTO に設定します。


- 2. 『専用ドライバの設定ダイアログの開き方』(P.54) を参照して、ドライバの設定ダイアログ (Mac OS 9 の場合は ASIO コントロールパネル) を開きます。
- 3. 次のように設定します。
 - Windows の場合：
「ASIO Direct Monitor を使う」チェック・ボックスにチェックを入れます。
 - Mac OS 9 の場合：
「Use ASIO Direct Monitor」チェック・ボックスにチェックを入れます。
- 4. [OK] をクリックして、ドライバの設定ダイアログを閉じます。
 - ※ お使いのシーケンス・ソフトウェアによっては、シーケンス・ソフトウェア側のオーディオ設定の項目にも、ASIO Direct Monitor の設定項目がある場合があります。詳しくは、お使いのシーケンス・ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
 - ※ ASIO Direct Monitor を使った場合、シーケンス・ソフトウェアの設定や録音手順によっては、意図しないタイミングでモニターのオン/オフが切り替わってしまう場合があります。このような場合は、手順3でチェック・ボックスのチェックをはずし、ASIO Direct Monitor を無効にしてください。

ドライバの削除方法 (Windows)

1. UA-4FX を接続していない状態で、Windows を起動します。
 - ※ USB キーボードと USB マウス以外のすべての USB ケーブルをはずした状態にしておいてください。
2. CD-ROM をコンピューターの CD-ROM ドライブに入れます。
3. Windows のスタート・メニューから**ファイル名を指定して実行**を選びます。**ファイル名を指定して実行**ダイアログの**名前欄**に次のように入力して **[OK]** をクリックします。
Windows XP/2000 の場合： D:¥Driver¥Xp2k¥Uninstal.exe
Windows Me/98 をの場合： D:¥Driver¥Me98¥Uninstal.exe
 - ※ ドライブ名 **D:** は、お使いの環境によって異なる場合があります。お使いの CD-ROM ドライブ名に合わせてください。
4. 表示されるダイアログの指示に従って、アンインストールを行ってください。
 - ※ アンインストールを行うと、Windows に標準で付属している USB オーディオ・デバイス・ドライバと専用ドライバの両方がアンインストールされます。

ドライバの削除方法 (Mac OS X)

1. UA-4FX を接続していない状態で、Macintosh を起動します。
 - ※ USB キーボードと USB マウス以外のすべての USB ケーブルをはずした状態にしておいてください。
2. 起動中のソフトウェアをすべて終了します。
開いているウィンドウもすべて閉じてください。ウィルス・チェッカーなどのソフトウェアをお使いのときは、それらも必ず終了してください。
3. CD-ROM を準備します。CD-ROM を CD-ROM ドライブに入れます。
4. CD-ROM の **Driver (MacOS X)** フォルダにある **UA4FX_Uninstaller** をダブルクリックします。
5. **EDIROL UA-4FX ドライバを削除します。**と表示されますので、**[Uninstall]** をクリックします。
 - ※ その他のメッセージが表示された場合は、そのメッセージの内容にしたがってください。
6. **ドライバを削除します。よろしいですか?**と表示されますので、**[OK]** をクリックします。
7. 「**認証**」ダイアログが表示されますので、パスワードを入力し、**[OK]** をクリックします。
8. **アンインストールが完了しました。**と表示されますので、**[Restart]** をクリックして Macintosh を再起動します。

ドライバのインストールと設定 (Mac OS 9)

UA-4FX ドライバのインストール

MIDI ドライバとして、OMS または FreeMIDI が必要です。

CD-ROM に収録されている UA-4FX ドライバは、OMS や FreeMIDI で UA-4FX を使用するための追加モジュールになっています。

OMS は CD-ROM の OMS (Mac OS 9) フォルダの OMS 2.3.3J の中にあります。

OMS について詳しく知りたい場合は、同じフォルダにある OMS_2.0J_Mac.pdf を参照してください。

- ※ お使いのシーケンス・ソフトウェアにあわせて、OMS か FreeMIDI のどちらかを Macintosh の起動ディスクにあらかじめインストールしておく必要があります。
- ※ UA-4FX ドライバのインストール後に OMS をインストールした場合は、もう一度 UA-4FX ドライバのインストールを行ってください。

ドライバをインストールする前に、UA-4FX が Macintosh に接続されていると、Macintosh 起動後に以下のようなメッセージが表示されます。表示されるメッセージの内容に応じて以下の手順を実行してください。

「USB 装置 “UA-4FX” に必要なドライバが使用できません。インターネット経由でドライバを探しますか？」
と表示された場合：→ [キャンセル] をクリックします。

UA-4FX ドライバを以下の手順に従ってインストールしてください。

1. UA-4FX を接続していない状態で Macintosh を起動します。
 - ※ USB キーボードと USB マウス以外のすべての USB ケーブルをはずした状態においてください。
2. 起動中のソフトウェアをすべて終了します。
3. CD-ROM を準備します。CD-ROM を CD-ROM ドライブに入れてください。
4. CD-ROM の Driver J (Mac OS 9) フォルダ内の UA-4FX Driver-J Installer アイコンをダブルクリックします。
5. インストールする場所を確認して、[インストール] をクリックします。
インストールする場所の表示は、お使いの環境によって異なります。現在使用しているシステムの起動ディスクが選択されていることを確認してください。
6. 次のようなメッセージが表示される場合は、[続行] をクリックします。
他の起動中のソフトウェアが終了して、インストールが続行されます。



インストール終了後 Macintosh を再起動する
必要があります。[続行] をクリックすると自動
的にすべての起動中のアプリケーションを閉じま
す。“中止” をクリックすればディスクに変更を加
えることなく終了することができます。

キャンセル

続行




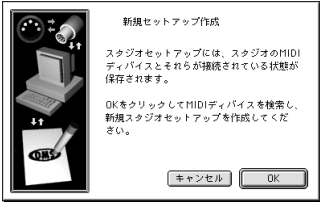
7. 「インストールが完了しました。」というダイアログが表示されます。
[再起動] をクリックして Macintosh を再起動します。

続いてドライバの設定を行います。

- OMS をお使いのとき P.58
- FreeMIDI をお使いのとき P.60

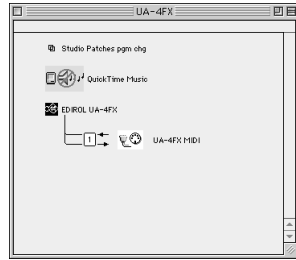
OMS の設定

FreeMIDI をお使いの場合は、『FreeMIDI の設定』(P.60) へお進みください。

1. **UA-4FXの操作** UA-4FX の **ADVANCE (モード切り替え) スイッチ** が **ON** になっていることを確認します。
2. **UA-4FXの操作** UA-4FX を Macintosh に接続します。
 - ※ Macintosh 本体の USB コネクタへ接続してください。キーボードの USB コネクタには接続しないでください。
 - ※ UA-4FX は回路保護のため USB 接続をしてからしばらくは動作しません。
3. CD-ROM の **Driver J (Mac OS 9) - OMS Setting** フォルダを Macintosh のハードディスク (起動ディスク) の **Opcode - OMS アプリケーション** フォルダにドラッグし、コピーします。
4. OMS がインストールされている場所 (ハード・ディスク) にある **Opcode - OMS アプリケーション** フォルダの中の **OMS Setup** をダブルクリックして起動します。
5. このようなダイアログが表示される場合は、[オフにする] をクリックします。続いて、確認のダイアログが表示されますが、そのまま [OK] をクリックします。
 - ※ アップル・メニューのセレクトで、**AppleTalk** を不常用にすることをお勧めします。
6. **新規セットアップ作成**ダイアログが表示される場合は、[キャンセル] をクリックします。
[OK] をクリックしてしまった場合には、次の画面で [キャンセル] をクリックしてください。

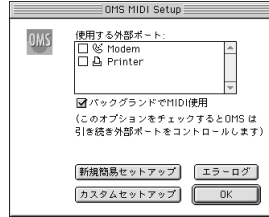
7. ファイル・メニューから開くを選びます。

手順 3 でコピーした **OMS Setting** フォルダの中の **UA-4FX** ファイルを選択して **開く** をクリックします。
このような画面が表示されます。



8. 編集メニューからOMS MIDIセットアップを選びます。

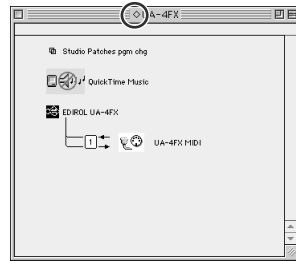
表示された **OMS MIDI Setup** ダイアログのバックグラウンドで **MIDI 使用** をチェックして、**[OK]** をクリックします。



9. ファイル・メニューからセットアップを有効にするを選択します。

セットアップを有効にするが選択できない場合は、すでに有効になっていますので、そのままがかまいません。

◇が付いていれば設定が有効になっています

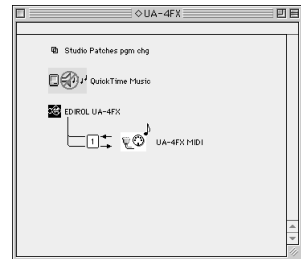


10. MIDI の送受信が正常に行われていることを確認します。

スタジオ・メニューから**テスト**を選択します。

11. マウス・カーソルを MIDI 端子のアイコンに近づけると、カーソルが  の形に変わります。

図のMIDI端子のアイコン上でクリックしてください。UA-4FX の MIDI OUT 端子に音源を接続している場合は、音源から音が鳴れば、正しく設定ができています。

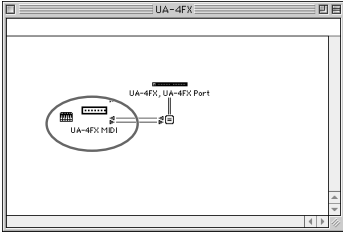


12. **OMS Setup** を終了します。

ファイル・メニューから**終了**を選択します。

AppleTalk の確認ダイアログが表示された場合は **[OK]** をクリックしてダイアログを閉じます。

FreeMIDI の設定

1. **UA-4FXの操作** UA-4FX の **ADVANCE(モード切り替え)** スイッチが **ON** になっていることを確認します。
2. **UA-4FXの操作** UA-4FX を Macintosh に接続します。
 - ※ Macintosh 本体の USB コネクタへ接続してください。キーボードの USB コネクタには接続しないでください。
 - ※ UA-4FX は回路保護のため USB 接続をしてからしばらくは動作しません。
3. CD-ROM の **Driver J (Mac OS9) – FreeMIDI Setting** フォルダを Macintosh のハードディスク (起動ディスク) の **FreeMIDI Applications** フォルダにドラッグし、コピーします。
4. FreeMIDI がインストールされている場所 (ハードディスク) の **FreeMIDI Applications** フォルダの中の **FreeMIDI Setup** アイコンをダブルクリックして起動します。
 - ※ 「OMS is installed on this computer...」というダイアログが開いたら、**[FreeMIDI]** をクリックします。
5. 初回起動時には、以下のことを行ってください。
 1. 「Welcome to FreeMIDI!」と書かれたダイアログが開きます。
[Continue] をクリックします。
 2. FreeMIDI Preferences ダイアログが開きます。
[Cancel] をクリックします。
 3. About Quick Setup ダイアログが開きます。
[Cancel] をクリックします。
6. File メニューから **Open** を選びます。
Open が選べない場合は、以下のことを行った後、もう一度、**手順 4** から設定を行ってください。
 1. File メニューから **FreeMIDI Preferences** を選びます。
 2. **Use OMS when available** のチェックをはずします。
 3. FreeMIDI を終了します。
7. **手順 3** でコピーした **FreeMIDI Setting** フォルダ内の **UA-4FX** を選択して、**[開く]** をクリックします。
8. MIDI の送受信が正常に行われていることを確認します。
MIDI メニューから **Check Connections** を選択します。
9. マウス・カーソルが鍵盤の形に変わります。
図のアイコン上でクリックしてください。
UA-4FX の MIDI OUT 端子に音源を接続している場合は、音源から音が鳴れば、正しく設定ができています。
 
10. 再度、MIDI メニューの **Check Connections** を選択し、チェックを終了します。
11. File メニューから **Quit** を選択し、**FreeMIDI Setup** を終了します。

ASIO ドライバのインストール

UA-4FX でオーディオのみを使用する場合も、UA-4FX ドライバをインストールする必要があります。ASIO ドライバをインストールする前に、UA-4FX ドライバを必ずインストールしてください (P.57)。

シーケンス・ソフト／オーディオ編集ソフトで、UA-4FX をお使いになるための ASIO ドライバのインストールの手順について説明します。

ASIO ドライバのインストールと設定については CD-ROM の **DriverJ (Mac OS 9)** フォルダ内の **Readme_J.htm** も必ず参照してください。

ASIO

ASIO 対応ソフトウェアで UA-4FX を使用することで、オーディオの同期精度が向上し、高度な音楽制作環境が実現します。



UA-4FX では、アドバンス・モードでは Macintosh のサウンドマネージャーからのオーディオ・データ (オーディオ CD や警告音) を再生することはできません。

UA-4FX の ASIO ドライバは以下のオーディオ入出力チャンネルをサポートしています。

- オーディオ入力
…24/16bit ステレオ 1 ch (モノラル 2 ch)
- オーディオ出力
…24/16bit ステレオ 1 ch (モノラル 2 ch)

お使いの ASIO 対応ソフトウェアが ASIO2.0 や 24bit オーディオ・データの録音、再生に対応している場合は、それぞれ次のドライバを使用することにより高音質な環境になります。

ASIO 対応ソフト		使用ドライバ
ASIO2.0 対応	24bit 対応	
×	×	UA-4FX ASIO1.0 16bit
×	○	UA-4FX ASIO1.0 24bit
○	×	UA-4FX ASIO2.0 16bit
○	○	UA-4FX ASIO2.0 24bit

ここでは、ASIO1.0 16bit 対応ドライバのインストール方法を説明します。

1. CD-ROM の中の

Driver J (Mac OS 9) — ASIO フォルダの中にある **[UA-4FX ASIO1.0 16bit]** を、お使いの ASIO 対応ソフト (Cubase VST、Logic、Digital Performer など) のフォルダ内にある **ASIO Drivers** フォルダにコピーします。



2. お使いの ASIO 対応ソフトを起動します。

3. お使いの ASIO 対応ソフトのオーディオの設定ダイアログを開き、ASIO Device に [UA-4FX ASIO1.0 16bit] を選択します。

※ オーディオの設定ダイアログは、ソフトウェアによって名称が異なります。詳しくは、お使いのソフトウェアの取扱説明書などを参照してください。

バックグラウンドの処理を優先する (Windows)

ドライバの処理をスムーズにするために、次の手順で設定を行ってください。

Windows XP をお使いのとき

1. システムのプロパティ・ダイアログを開きます。
 1. Windows のスタート・メニューからコントロールパネルを選びます。
 2. 「作業する分野を選びます」からパフォーマンスとメンテナンスをクリックします。
 3. 「コントロールパネルを選んで実行します」から、システム・アイコンをクリックします。

お使いの状態によっては、システム・アイコンが直接コントロールパネルに表示されていることがあります (クラシック表示)。そのときはシステム・アイコンをダブルクリックします。
2. 詳細設定タブをクリックします。
3. パフォーマンス枠の右側にある [設定] をクリックして、パフォーマンスオプション・ダイアログを開きます。
4. 詳細設定タブをクリックします。
5. プロセッサのスケジュール枠の「バックグラウンドサービス」にチェック・マークをつけ、[OK] をクリックします。
6. システムのプロパティ・ダイアログで [OK] をクリックします。

システムのプロパティ・ダイアログが閉じます。



Windows 2000 をお使いのとき

1. Windows のスタート・メニューから**設定 | コントロールパネル**を選びます。
2. コントロールパネルにある**システム・アイコン**をダブルクリックします。
3. **詳細**タブをクリックします。
4. パフォーマンス枠の右側にある**［パフォーマンスオプション］**をクリックします。
パフォーマンスオプション・ダイアログが開きます。
5. アプリケーションの応答枠の**「バックグラウンドサービス」**にチェック・マークをつけ、**［OK］**をクリックします。
6. システムのプロパティ・ダイアログで**［OK］**をクリックします。
システムのプロパティ・ダイアログが閉じます。



ドライバ署名オプションを設定する

Windows XP / 2000 をお使いの場合、「ドライバ署名オプション」の設定によっては、ドライバがインストールできないことがあります。以下を参考にして設定を行ってください。

1. システムのプロパティ・ダイアログを開きます。
Windows XP をお使いのとき
 1. Windows のスタート・メニューから**コントロールパネル**を選びます。
 2. 「**作業する分野を選びます**」から**パフォーマンスとメンテナンス**をクリックします。
 3. 「**コントロールパネルを選んで実行します**」から、**システム・アイコン**をクリックします。
お使いの状態によっては、**システム・アイコン**が直接**コントロールパネル**に表示されていることがあります（クラシック表示）。そのときは**システム・アイコン**をダブルクリックします。
2. **Windows 2000 をお使いのとき**
 1. Windows のスタート・メニューから**設定 | コントロールパネル**を選びます。
 2. コントロールパネルにある**システム・アイコン**をダブルクリックします。
3. **ドライバ署名オプション・ダイアログ**で「**無視**」を選び、**［OK］**をクリックします。
ドライバのインストール中にドライバ署名オプションに関するダイアログが表示され、インストールができなかった場合、ここでは「**無視**」に設定し、ドライバのインストールが完了したら変更前の設定に戻してください。
4. **［OK］**をクリックして、**システムのプロパティ・ダイアログ**を閉じます。

標準ドライバ・モード (ADVANCE スイッチ OFF)

UA-4FXにはアドバンス・モードと標準ドライバ・モードの2つの動作モードがあり、本体側面の **ADVANCE** スイッチで切り替えることができます。

通常はアドバンス・モードで使用しますが、**標準ドライバ・モード** (ADVANCE スイッチが OFF) に設定すると、UA-4FX をパソコンに挿すだけで、ドライバをインストールすることなくお使いいただけます。その場合、以下の制限事項があります。

- UA-4FXのサンプリング周波数切り替えスイッチの設定に関係なく、44.1 kHz / 16bitの固定です。
 - MIDI IN/OUT コネクタは使用できません。
- ※ 設定を切り替えた場合には、UA-4FX とパソコンを接続している USB ケーブルをいったん外して接続しなおしてください。

トラブルシューティング

トラブルが発生したら、まずこの章を読みましょう。トラブルを解決するためのヒントが書かれています。この章の内容を確認しても解決しない場合は、ホームページへアクセスしてみてください。最新の情報が用意されていることがあります (<http://www.roland.co.jp/cs/>)。それでも解決しない場合には、巻末の『お問い合わせの窓口』にお問い合わせください。

Windows や Macintosh を初めてお使いになる時など、操作についての説明が分からない場合は、お使いのパソコンや OS の取扱説明書を参照してください。



Windows のみで起こる問題



Macintosh のみで起こる問題

ドライバに関連したトラブル

ドライバが正しくインストールできない

ADVANCED (モード切り替え) スイッチは正しく設定されていますか？

お使いのモードに合わせて設定をしてください。

別紙「はじめに必ずお読みください」の『はじめに必ずドライバをインストールしてください』(P.2) の手順にしたがってインストールを試みたが、インストールできない。

再度、別紙「はじめに必ずお読みください」の『はじめに必ずドライバをインストールしてください』(P.2) を参照して UA-4FX ドライバをインストールしてください。また、デバイスマネージャーに「その他のデバイス」、「不明なデバイス」があるかどうかも確認してください。もし、見つかった場合は削除してください。



デバイス・マネージャーに「その他のデバイス」「不明なデバイス」「?!/! Xがついたデバイス」はありませんか？

ドライバのインストールが正常に完了しなかった場合、インストールされたドライバが不完全なままで残ってしまうことがあります。再度、別紙「はじめに必ずお読みください」の『ドライバのインストールと設定 (Windows)』(P.2) を参照して UA-4FX ドライバのインストールを行ってください。

UA-4FX は正しく接続されていますか？

パソコンの USB 端子と UA-4FX が、USB ケーブルで正しく接続されているかを確認してください。

他のソフトウェアや常駐ソフトウェア (ウィルスチェックなど) が起動していませんか？

他のソフトウェアが起動していると、インストールが正しく行われなくなることがあります。必ずインストールの前に他のソフトウェアを終了させてください。

ネットワークの CD-ROM ドライブからインストールしていませんか？

ネットワークの CD-ROM ドライブからはインストールできません。

CD-ROM や **CD-ROM** ドライブのレンズが汚れていませんか？

CD-ROM や CD-ROM ドライブのレンズが汚れていると、インストーラーが正常に動作しないことがあります。市販の CD 専用クリーナーやレンズクリーナーでクリーニングしてください。

パソコンの省電力設定はオフになっていますか？

省電力、パワー・セーブのための機能が有効になっている場合は、設定を解除してください。

(解除方法はパソコンの取扱説明書を参照してください。)

ハードディスクに十分な空き容量がありますか？

不要なファイルを削除して空き容量を増やしてください。

ファイルを削除した後、ごみ箱を空にしてください。

パソコンで USB 端子が使用可能になっていますか？

お使いのパソコンの取扱説明書を参照し、USB 端子が使用可能になっているか確認してください。USB 端子が使用可能になっていないとドライバをインストールすることができません。

お使いのパソコンが USB 規格を満たしていますか？

電氣的に USB 規格を満たしていないパソコンをお使いの場合は、動作が不安定になることがあります。その場合は電源を内蔵した USB ハブを接続することによって問題が解決することがあります。

ドライバをインストール／アンインストール／使用できない



Windows へは、管理者権限を持つユーザーでログオンしていますか？

UA-4FX ドライバをインストール／アンインストール／再インストールするためには、Administrator などの管理者権限を持つユーザーが Windows にログオンしなくてはなりません。

オーディオ、MIDI の録音や再生ができない音が鳴らない

UA-4FX の録音ソース切り替えスイッチが「ANALOG」になっていますか？

録音ソース切り替えスイッチが「DIGITAL」になっていると、デジタル入力端子に入力されたオーディオ信号が出力されます。パソコンのオーディオ・データは出力されません。

UA-4FX 本体の各ボリュームは適当ですか？

UA-4FX の出力ボリューム、入力ボリュームで音量を調節してください。

サンプリング周波数切り替えスイッチが「96kHz REC」になっていませんか？

サンプリング周波数切り替えスイッチが「96kHz REC」に設定されている場合、パソコンのオーディオ・データは出力されません。「96kHz PLAY」にするか、他の周波数を選んでください。

再生用オーディオ機器（ステレオなど）は、正しく接続されていますか？

UA-4FX の出力ジャックと、再生用オーディオ機器の入力端子がオーディオ・ケーブルで正しく接続されているか確認してください。

参照： 別紙「はじめに必ずお読みください」の『UA-4FX の基本的な接続方法』（P.12）

ソフトウェアが起動している状態で USB ケーブルを抜き差ししませんでしたか？

UA-4FX を使用しているソフトウェアをすべて終了し、UA-4FX を接続しなおしてください。

パソコンがスタンバイ（サスペンド）状態やスリープ状態になりませんでしたか？

復帰後に UA-4FX を使用しているソフトウェアをすべて終了し、UA-4FX を接続しなおしてください。

ドライバは正しくインストールされていますか？

UA-4FX を使ってオーディオ / MIDI データを再生するために、ドライバをインストールしておく必要があります。

参照： 別紙「はじめに必ずお読みください」の『はじめに必ずドライバをインストールしてください』（P.2）

複数のソフトウェアを起動していませんか？

複数のソフトウェアを同時に起動すると、エラー・メッセージが表示されることがあります。この場合は、使用していないソフトウェアを終了してください。

Windows では、ソフトウェアのウィンドウを閉じていても、タスクバーに残っていると起動していることとなりますので、タスクバーに表示されている不要なソフトウェアを終了してください。

使用する入出力デバイスは正しく設定されていますか？

UA-4FX を使ってオーディオ / MIDI データを再生するためには、入出力デバイスの設定をする必要があります。設定方法については、別紙「はじめに必ずお読みください」（Windows P.6、Macintosh P.10）をご覧ください。

UA-4FX を接続した状態でパソコンを起動していませんか？

UA-4FX を接続しない状態でパソコンを起動して、その後 UA-4FX を接続してください。お使いのパソコンの機種によっては、UA-4FX が接続された状態でパソコンを起動すると、動作が不安定になることがあります。

入力端子に接続している機器の音がヘッドホンで聴こえない

入力および出力ボリュームは適度にあげていますか？

つまみを右に回して、音量を調整してください。

UA-4FX の底面にあるインプット・モニター切り替えスイッチが「AUTO」になっていませんか？

インプット・モニター切り替えスイッチを「ON」にするか、お使いのアプリケーションのモニター・スイッチをオンにしてください。

マイク入力ジャック（XLR タイプ、プラグイン・パワード・マイク）、ギター／マイク入力ジャックに、同時に機器を接続していませんか？

使用するジャックにだけ機器を接続するようにしてください。

録音しても無音のファイルが生成される

OS 側で、オーディオデータの入力先を正しく設定してありますか？

お使いになるソフトウェアによっては、パソコン側のオーディオ・データの入力先を UA-4FX に設定する必要があります。

参照： 別紙「はじめに必ずお読みください」の
『ドライバの設定』（Windows P.6、Mac OS X P.10）

パソコンのオーディオ出力をデジタル録音する場合：

「録音ソース切り替えスイッチ」の設定が「LOOP-BACK」になっていませんか？

LOOP-BACK に設定してください。

サンプリング周波数切り替えスイッチが「96kHz PLAY」になっていませんか？

サンプリング周波数切り替えスイッチが「96kHz PLAY」に設定されている場合、オーディオ・データの録音はできません。「96kHz REC」にするか、他の周波数を選んでください。

デジタル接続での録音ができない

CD や MD のオーディオ・データをパソコンに取り込む場合：

「録音ソース切り替えスイッチ」の設定が「DIGITAL」になっていますか？

DIGITAL に設定してください。

ソフトウェアのサンプリング周波数の設定とデジタル入力コネクタに接続しているデジタル機器のサンプリング周波数は同じですか？

サンプリング周波数を同じ周波数にしてください。

デジタル入力端子にデジタル機器をつないだまま、機器側でサンプリング周波数を切り替える（デジタル放送の A モード／B モード切り替えなど）と、録音ができなくなります。

サンプリング周波数を切り替える時は、デジタル・ケーブルを挿し直してください。

民生用デジタル・オーディオ機器フォーマット以外のデジタル・データの録音はできません。

SCMS のための符号が記録されたデータはデジタル録音できません。

UA-4FX は SCMS に対応していますので、市販音楽 CD からデジタルコピーした MD など、SCMS のための符号が記録されたデータをデジタル入力コネクタから入力した場合、UA-4FX はこれをパソコンに録音することはできません（ライン出力ジャック、ヘッドホン・ジャックからは出力されます）。

24bit オーディオ・データの再生／録音ができない

お使いのソフトウェアは 24bit オーディオ・データに対応していますか？

24bit オーディオ・データに対応したソフトウェアをお使いください。

MIDI の録音／再生ができない

使用する MIDI デバイスは正しく設定されていますか？

UA-4FX で MIDI トラックを録音／再生するときは、UA-4FX のドライバを正しくインストールしてください。

また、お使いのソフトウェアで使用したい MIDI デバイスを設定してください。

参照： 別紙「はじめに必ずお読みください」の

『はじめに必ずドライバをインストールしてください』（P.2）

ADVANCE スイッチを「ON」にしていますか？


ADVANCE スイッチが「OFF」になっている場合、MIDI の録音／再生はできません。

パソコンで録音や再生をする時にノイズや音切れがする

オーディオの再生中にノイズが入る


オーディオの再生中に音が途切れる

録音した音にノイズが入る

 Windows で「バックグラウンドの処理を優先にする」の設定を行いましたか？

オーディオ /MIDI の処理をスムーズにするために、「バックグラウンドの処理を優先にする」の設定を行ってください。

参照：『バックグラウンドの処理を優先する（Windows）』（P.62）

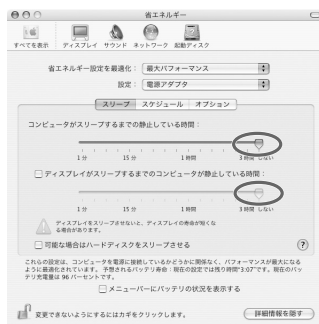
 Macintosh で省エネルギーの設定を確認してください。

Mac OS X のシステム環境設定にある省エネルギーで次のように設定してください。

スリープ・タブをクリックします。

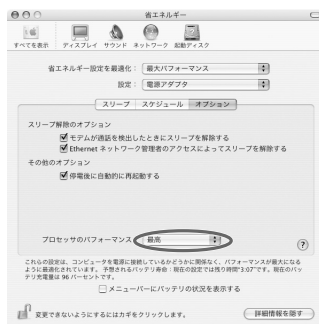
「コンピュータがスリープするまでの静止している時間：」をしないに設定します。

「ディスプレイがスリープするまでのコンピュータが静止している時間：」をしないに設定します。



オプション・タブをクリックします。

プロセッサのパフォーマンスがある場合は、最高を選びます。





Windows では、コントロールパネルにあるパワーマネージメントの設定により、オーディオの再生が途切れることがあります。

パワーマネージメントをダブルクリックして表示される電源のプロパティの内容は、お使いのパソコンの環境によって異なります。一般的な例をもとに説明をしますが、お使いのパソコンの取扱説明書をご覧になり確認してください。パソコンによっては、次の設定項目がない場合もあります。

1. Windowsのコントロールパネルのシステム・アイコンをダブルクリックします。システムのプロパティ・ダイアログを開きます。
2. ハードウェア・タブをクリックします。
3. デバイスマネージャをクリックして、デバイスの一覧を表示させます。
4. 一覧の中から、アドバンストパワーマネージメントサポートを選び、プロパティをクリックします。アドバンストパワーマネージメントサポートのプロパティ・ダイアログを表示させます。
5. 設定タブをクリックし、トラブルシューティングの電源状態のポーリングをしないのチェック・ボックスにチェックを入れて [OK] をクリックします。
6. システムのプロパティ・ダイアログで [OK] をクリックします。
7. Windows を再起動します。

UA-4FX 以外に USB 機器をお使いですか？

UA-4FX以外のUSB機器の電源を切ってみてください。

UA-4FX ドライバの設定ダイアログでバッファサイズを調整することで症状を改善できることがあります。

『オーディオのレイテンシを調整する』(P.54) を参照して、バッファサイズを調整してください。

- ※ バッファ・サイズを変更したら、必ずUA-4FXを使用しているソフトウェアを再起動してください。

オーディオ機器のテスト機能を持ったソフトウェアをお使いの場合は、そのテスト機能を実行してください。

多くのソフトウェアを起動していませんか？

演奏中に同時に多くのソフトウェアを使用したり、他のソフトウェアを起動したときなどには、演奏が途切れる場合があります。不要なソフトウェアを終了してから、もう一度試してください。それでも改善されない場合は、パソコンを再起動してみてください。

LAN が動作していると、音が途切れることがあります。

デバイスマネージャでLANを無効にしてみてください。それによって音切れが解消された場合には、LAN用ドライバやBIOSのアップデートによって音切れが解消される可能性があります。

ソフトウェアのサンプリング周波数の設定と UA-4FX のサンプリング周波数切り替えスイッチの設定は同じですか？

ソフトウェアと UA-4FX は同じサンプリング周波数に設定してください。

UA-4FX のサンプリング周波数を切り替えた場合は、設定を有効にするために UA-4FX を接続しなおしてください。

メモリを増やしてみてください

メモリを増やすことによって、パソコンの処理能力がアップします。メモリの増設については、お使いのパソコンの取扱説明書をお読みください。

USB ハブに UA-4FX を接続していますか？

パソコン本体の USB 端子に直接、接続してみてください。

付属の USB ケーブルをお使いですか？

UA-4FX をお使いになる場合は、付属の USB ケーブルをお使いください。市販の USB ケーブルには、USB 規格を満たしていないものがあるため、UA-4FX が正しく動作しない場合があります。

音が歪む

エフェクトをかけていますか？

エフェクトの種類によっては、エフェクトを強くかけすぎると音が歪んでしまう場合があります。このときは、入力ボリュームやギター／マイク入力ボリュームで入力レベルを下げてみてください。また、エフェクトつまみを左に回してエフェクトのかかり具合を小さくしてください。

再生／録音が途中で停止し、その後再生／録音ができない

UA-4FX を使用中に CD-ROM ドライブやネットワークにアクセスするなど、負荷が重い処理を行いませんでしたか？

UA-4FX を使用中に負荷の大きい処理を行うと、正しく動作しない場合があります。このような場合は、いったん再生／録音を中止して、再度、再生／録音を開始してください。それでも再生／録音が正しくできない場合は、UA-4FX を使用しているソフトウェアをすべて終了し、UA-4FX を接続しなおしてください。

デジタル録音した音が歪んだりピッチが変わったりノイズが入ったりする

ソフトウェアのサンプリング周波数の設定とデジタル入力コネクタに接続しているデジタル機器のサンプリング周波数は同じですか？

ソフトウェアと UA-4FX のサンプリング周波数を同じ周波数にしてください。

UA-4FX のサンプリング周波数を切り替えた場合は、設定を有効にするために UA-4FX を接続しなおしてください。

5.1ch サラウンド再生ができない

5.1ch サラウンド再生は、Windows のみ対応しています。

アドバンス・モードでお使いですか？

5.1ch サラウンド再生をお楽しみになる場合には、アドバンス・モードでお使いください。そのためには、UA-4FX の ADVANCE（モード切り替え）スイッチを ON に設定し、ドライバをインストールする必要があります。

サンプリング周波数切り替えスイッチの設定は、48kHz になっていますか？

サンプリング周波数切り替えスイッチを 48kHz に設定してください。

WinDVD 4 以降をお使いですか？

WinDVD 4 以降のバージョンをお使いください。

最新のアップデートで最新状態でお使いになることをお勧めします。

オーディオの入出力先の設定は正しくされていますか？

オーディオの入出力先を UA-4FX に設定してください。

参照：別紙「はじめに必ずお読みください」の「ドライバの設定」(P.6)

パソコンからの再生音以外にノイズや歪みが発生する音が小さい

ノイズがのる

マイクやギターが接続されたままになっていませんか？

UA-4FX にマイクやギターが接続されている場合は、マイクやギターを抜いて、入力ボリュームを左いっぱいに戻してください。(入力レベルを下げます。)

接地端子の処理をしていますか？

パソコンのシャーシ、またはパソコン付属の AC 電源プラグのアース端子を接地することで問題が解決することがあります。また、近くにテレビや電子レンジなど、強い磁気が発生する機器がないか確認してください。

多くのオーディオ機器を接続していませんか？

多くのオーディオ機器を接続すると、ノイズが発生することがあります。使用しないオーディオ機器は接続しないようにしてください。

入力ジャックに接続している機器の音が歪む

オーディオ入出力端子に接続した機器の音量が小さい

入力/出力レベル・インジケータが赤く点灯していませんか？

ギター/マイク入力ジャック、マイク入力ジャック (プラグイン・パワード・マイクまたは XLR タイプ) から音声を入力している場合は、UA-4FX のギター/マイク入力ボリュームで、入力レベルを小さくしてください。

ライン入力ジャックから音声を入力している場合は、入力ボリュームで入力レベルを小さくしてください。

また、ギター/マイク入力ジャックから音声を入力している場合は、入力切り替えスイッチの設定を確認してください。

ライン入力やマイク入りにノイズが入ることがあります。

USB 接続対応の MIDI 音源と UA-4FX を同じパソコンから USB 経由で接続していて、MIDI 音源の出力を UA-4FX のインプット端子に接続している場合、パソコンのノイズが MIDI 音源を経由して UA-4FX から聞こえてしまうことがあります。その場合、MIDI 音源と UA-4FX を自己電源ハブを使用して並列に接続するか、MIDI 音源をシリアル接続もしくは MIDI 経由で接続してください。

UA-4FX やミキサーなどのオーディオ機器を、パソコンに 2 台以上接続していませんか？

UA-4FX を 1 台だけパソコンに接続してみてください。UA-4FX を 1 台だけ接続したときにノイズがなくなるか確認してください。パソコンに多くのオーディオ機器を接続すると、お使いの環境によってはノイズが発生することがあります。そのような場合は、UA-4FX だけをパソコンに接続してお使いください。

ギターに大きなノイズがのる

ギターの音量を下げるとノイズが小さくなりますか？

ギターの音量を下げるとノイズが小さくなる場合は、ギターのピックアップが、パソコンやディスプレイのノイズに影響を受けている可能性があります。パソコンからできるだけ離れてみてください。

ギターの音が小さい

ギター／マイク切り替えスイッチの設定は正しいですか？

GUITAR にしてください。

サスペンドやハイパーネーションから復帰するとボリュームが変わってしまった



Windows 2000 では、サスペンドやハイパーネーションから復帰すると、Windows 側の問題により、出力のボリューム設定が変わることがあります。

ミキサー・アプリケーションを立ち上げ、Edirol UA-4FX のスライダーを調整してください。

ライン入力ジャックに接続した機器の音量が小さい。

抵抗入りの接続ケーブルを使用していませんか？

抵抗の入っていない接続ケーブル(ローランド:PCS シリーズなど)をご使用ください。

その他のトラブル

Cubase が起動しない

Cubase で UA-4FX を初めて使用しますか？

Cubase で UA-4FX を初めて使用するときは、UA-4FX のサンプリング周波数切り替えスイッチを 44.1kHz に設定してお使いください。

44.1kHz に設定されていないと、Cubase が起動できないことがあります。

Sound it! のシリアル番号、CD キーがわからない

シリアル番号、CD キーは以下に記載しています。

Windows P.10、Macintosh P.12 に記載されています。

お問い合わせの窓口のご案内

お問い合わせ窓口について

Sound it! については以下をご覧ください。それ以外のお問い合わせについては、ローランドでサポートいたします。

お問い合わせについては、巻末に記載の『お問い合わせの窓口』のローランドDTMホットラインをご利用ください。

Sound it! のお問い合わせ窓口について

Sound it! に関する質問は、株式会社インターネットにて受け付けております。下記の窓口までお問い合わせください。

電話、FAX、郵送の場合

あらかじめ添付の「お問い合わせシート」(P.77)にて必要事項をご確認、ご記入の上、お問い合わせください。必要事項を明記いただけないお問い合わせにつきましては、お答えできない場合もありますので、必ず指定のシートの形式をご利用の上、ご送付いただきますようお願いいたします。

サポート専用電話番号（株式会社インターネット）：

東京：03-3226-0208

大阪：06-6539-0621

FAX 番号（株式会社インターネット）：

東京：03-3226-0184

大阪：06-6539-0622

【受付時間】

月曜～金曜 11:00～13:00、14:00～17:00

（土、日、祝祭日、およびインターネット社規定の休日を除く。FAXは24時間受付）

住所（株式会社インターネット）：

〒550-0014 大阪市西区北堀江2-2-25

株式会社 インターネット ユーザーサポート宛

電子メールの場合

お問い合わせの際は、インターネット社のホームページにある「お問い合わせシート」の形式にてご送付ください。

お問い合わせシート：<http://www.ssw.co.jp/>

Web サイトでは、製品に関するFAQ（よくある質問とその答え）なども公開しておりますのでご利用ください。

E-mail アドレス：

techsupport@ssw.co.jp

※ メールを送る際には、文字化けなどのトラブルを避けるため、必ず「テキスト（半角カナは不可）」のみでお送りください。

FAX 06-6539-0622

お問い合わせシート

年 月 日

サポート対象商品： Sound it! 3.0 LE for Windows / Sound it! 3.0 for Macintosh(お使いの製品どちらか一方にチェックしてください。)

ユーザー様の

- お名前 : _____
- 電話番号 : _____ ● FAX番号 : _____
- E-mailアドレス : _____ @ _____
- ご住所 : 〒 □□□□ - □□□□
- 商品のシリアル番号 : □□□□□□□□□□
- バージョン : Ver. _____
(ヘルプメニューの「バージョン情報」、またはアップル・メニューの「Sound it! について」でご確認ください。)

Windows をお使いの場合

- コンピューターのメーカー名 : _____ 機種名 : _____
(末尾の型番まで正確をお願いします。)
- CPU : 内をチェックしてください。
 MMXPentium Pentium II / III / IV Celeron その他 (_____) クロック : (_____) Hz
- 搭載メモリ容量 : (_____) MB ● HD空き容量 : (_____) バイト
- OSの名称 : WindowsXP Windows2000 WindowsMe Windows98
- オーディオデバイス
 Roland UA-4FX
 USBサウンド機器 コンピューター内蔵 サウンドカード (ISA, PCI) PCカード その他
メーカー名 : (_____) 機種名 : (_____)

Macintosh をお使いの場合

- コンピューターの種類と搭載メモリ : 内をチェックしてください。
 デスクトップ 型 (機種名 : _____ / _____) : 搭載メモリ (_____) MB
 ブック 型 (機種名 : _____ / _____) : 搭載メモリ (_____) MB
- OSの名称 : Mac OS (_____) ● 仮想メモリ : 切 入 (_____) MB
- HD空き容量 : (_____) バイト
- オーディオデバイス
 Roland UA-4FX
 USBサウンド機器 コンピューター内蔵 サウンドカード その他
メーカー名 : (_____) 機種名 : (_____)

お問い合わせ内容

不具合の症状、発生に至る手順などをできるだけ詳しくお書きください。
また、ご使用システムの簡単な接続図をご記入ください。

CD-ROMを破損したとき（有償サポート）

CD-ROMを破損したときは、破損したオリジナル CD と CD-ROM を有償で交換することができます。巻末の『お問い合わせの窓口』に記載のDTM ホットラインまでご連絡ください。交換の詳しい手続き方法につきましては、ローランドのホームページにも記載されています。
<http://www.roland.co.jp/cs/>

- ※ お買い上げの販売店へはお申し込みできません。DTMホットラインへ直接お申し込みください。
- ※ CD-ROMの再発行の申し込みには、ユーザー登録完了時に発行されるお客様のIDナンバーが必要となります。

次のことをご確認ください

- 登録ユーザーのお客様に限ります。
ユーザー登録がお済みでない場合は、製品に付属されているユーザー登録カードをご覧ください。
- 有償（手数料 ¥5,250：税込）での交換となります。交換の際には破損したCDが必要です。
- ソフトウェアの取扱説明書およびCD-ROMは、紛失されても再発行や販売はできません。大切に保管してください。
- ソフトウェアCD-ROMからフロッピー・ディスクなどへのメディア・コンバート・サービスはできません。

----- きりとりせん -----

CD-ROM 再発行申込書

CD-ROM 再発行申込書 (UA-4FX)

お名前
電子メールアドレス
電話番号
FAX番号
ご住所
製造番号
IDナンバー

※ CD-ROMの再発行手数料は ¥5,250（税込）です。

主な仕様

UA-4FX : USB オーディオ・インターフェース

● オーディオ録音再生チャンネル数

録音 : 1 系統ステレオ
再生 : 1 系統ステレオ
REC SOURCE スイッチ = ANALOG :
同時録音再生可能 (96kHz 時を除く)
REC SOURCE スイッチ = DIGITAL :
録音のみ可能

● 信号処理

PC インターフェイス 24 ビット
AD/DA 変換 24 ビット
内部演算精度 32 ビット (エフェクト処理)

● サンプリング周波数

デジタル出力 44.1/48/96kHz
デジタル入力 44.1/48/96kHz
AD/DA 変換 44.1/48/96kHz

※ ADVANCE スイッチ OFF 時は、44.1kHz で使用可能。

● 周波数特性

96.0kHz 20Hz ~ 40kHz (+1dB/-2dB)
48.0kHz 20Hz ~ 22kHz (+1dB/-1dB)
44.1kHz 20Hz ~ 20kHz (+1dB/-1dB)

● 規定入力レベル

ライン・インプット・ジャック -10dBu
マイク・インプット・ジャック (XLR) -45 ~ -12dBu
マイク・インプット・ジャック (XLR 以外) -45dBu
ギター・インプット・ジャック -30dBu

● 規定出力レベル

ライン出力 -10dBu

● 残留ノイズ・レベル

(入力 1kΩ ターミネート、MAIN VOLUME : 0dB、
Monitor : off、IHF-A、typ.)
-105dBu 以下 (信号対雑音比 : 108dB typ.)

● インターフェース

USB
デジタル入出力
オプティカル・タイプ
IEC60958 に準拠
民生用デジタルオーディオ機器フォーマットに対応
デジタル出力は PCM、Dolby DIGITAL に対応

● エフェクト

1. マスタリング・エフェクト
ノイズ・サプレッサー/エンハンサー
/マルチバンド・コンプレッサー・リミッター
2. リスニング・エフェクト
センター・キャンセル/ハイ・ブースト/
ロー・ブースト/リバーブ
3. パフォーマンス・エフェクト
コンプレッサー/アンプ・シミュレーター&
ディストーション/コーラス/ディレイ
4. チューブ・アンプ・シミュレーター
チューブ・アンプ・シミュレーター/
マルチバンド・コンプレッサー・リミッター

● 接続端子

ライン・インプット・ジャック (L, R) (RCA ピン・タイプ)
マイク・インプット・ジャック (XLR タイプ、ファンタム電源)
マイク・インプット・ジャック (ミニ・タイプ、
プラグイン・パワー)
ギター/マイク・インプット・ジャック (標準タイプ)
ライン・アウトプット・ジャック (L, R) (RCA ピン・タイプ)
ヘッドホン・ジャック (ステレオ標準タイプ)
デジタル・イン・コネクタ (オプティカル・タイプ)
デジタル・アウト・コネクタ (オプティカル・タイプ)
USB コネクタ (USB Type B)

● 電源

USB 端子から取得

● 消費電流

360mA

● 外形寸法

171.0 (幅) × 126.8 (奥行) × 43.6 (高さ) mm

● 質量

335g (本体のみ)

● 付属品

日本語パネルシート
USB ケーブル
CD-ROM
取扱説明書
応用ガイド
使用許諾契約書 (2 枚)
ローランド ユーザー登録カード
インターネット社ユーザー登録カード
保証書

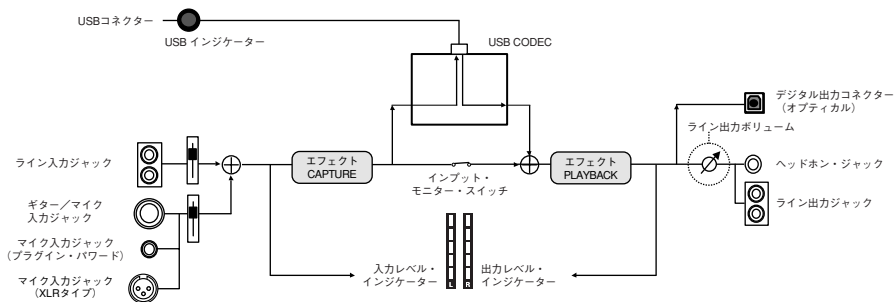
(0dBu = 0.775Vrms)

※ 本書では、ディスプレイ/画面を使用して機能説明
をしていますが、工場出荷時の設定と本文中のデ
ィスプレイ/画面上の設定は一致していません。あら
かじめご了承ください。

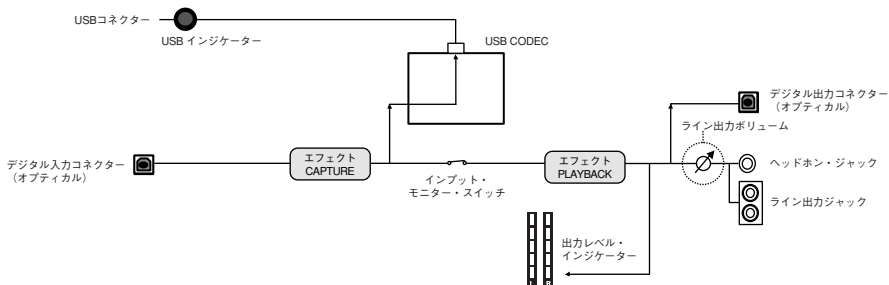
※ 製品の仕様および外観は、改良のため予告なく変更
することがあります。

ブロック図

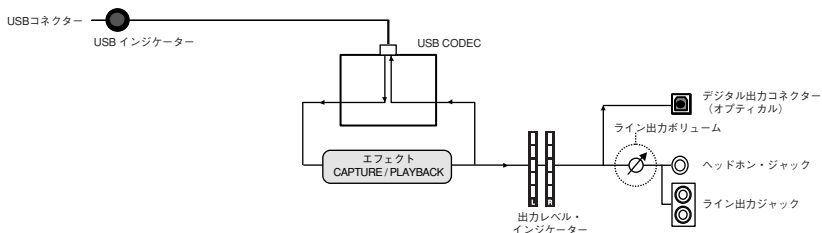
録音ソース切り替えスイッチが ANALOG のとき



録音ソース切り替えスイッチが DIGITAL のとき



録音ソース切り替えスイッチが LOOP-BACK のとき



索引

数字

5.1ch 33

A-Z

ADVANCE スイッチ OFF 64

AIFF 25

AMP/DRIVE 46

AppleTalk 58 ~ 59

ASIO 55, 61

ASIO Direct Monitor 55

Buffer Size 54

CD 27, 42

CENTER CANCEL 44

CHORUS 46

DAT 26 ~ 27

DELAY 46

ENHANCER 41

FX VOICE 46

LISTENING 34, 44

LOW BOOST 44

MASTER-Hi 41

MASTERING 34, 41

MASTER-Lo 41

MD 26 ~ 27

MP3 25

NOISE SUP 41

OMS 57 ~ 58

PERFORM 34

REVERB 44

SCMS 27

Sound it! 9

Virtual Sound Canvas 49

WAV 25

あ

アドバンス・エフェクト 34

アドバンス・モード 54, 64

アナログ 23

インターネット・ラジオ 32, 45

エフェクト 34

エフェクトつまみ 37

エフェクト・パリエーション・ボタン 37

音をシャープに 41

か

カセット・テープ 23, 42

ギター 28

ギターアンプ/歪み 46

キャプチャー・ボタン 37

高音の音圧アップ 41

高音を強調 44

コーラス 46

コンデンサー・マイク 30 ~ 31

さ

サラウンド 33

サンプリング周波数切り替えスイッチ
..... 23, 26 ~ 28, 30, 32

重低音 44

センター・キャンセル 44

た

ダイナミック・マイク 31

チューブ・シミュレーター・ボタン 37

低音の音圧アップ 41

ディレイ 46

デジタル 27

ドライバ 56 ~ 57

ドライバ署名オプション 63

な

入力切り替えスイッチ 29

入力/出力レベル・インジケータ 24

ノイズをとる 41

は

バッファ・サイズ	54 ~ 55
パフォーマンス	34
パフォーマンス・エフェクト	46
標準ドライバ・モード	64
ファンタム電源スイッチ	31
プラグイン・パワー・マイク	31
プレイバック・ボタン	37
ブロック図	80
ボーカル効果	46

ま

マイク	28, 31
ギター／マイク入力ボリューム	29, 31
マスタリング	34
マスタリング・エフェクト	41

ら

リスニング	34
リスニング・エフェクト	44
リバーブ	44
ループ	24
レイテンシ	54
レコード	23
録音ソース切り替えスイッチ	24, 26 ~ 27, 29, 31 ~ 32

お問い合わせの窓口

- ローランド製品全般に関するお問い合わせ先

デジタル・ピアノ、シンセサイザー、デジタル・レコーダー、BOSSエフェクターなど

お客様相談センター **050-3101-2555**

- コンピューター・ミュージック関連製品に関するお問い合わせ先

オーディオ&MIDIインターフェース、DTM音源モジュール、DTMソフトウェアなど

DTMホットライン **050-3101-2570**

電話受付時間： 午前10時～午後5時（日曜および弊社規定の休日を除く）

※IP電話からおかけになって繋がらない場合には、お手数ですが、電話番号の前に“0000”（ゼロ4回）をつけてNTTの一般回線からおかけいただくか、携帯電話をご利用ください。

※上記窓口の名称、電話番号等は、予告なく変更することがありますのでご了承ください。

- 修理に関するお問い合わせ先

商品をお求めの販売店か、保証書封筒裏面にある「修理の窓口」

（サービスの窓口）に記載のサービスステーションへご相談ください。

- 最新サポート情報

よくある質問への回答、各種ソフトウェアのダウンロード、最新の動作確認情報など

ローランド・サポート <http://www.roland.co.jp/cs/>

製品情報やイベント／キャンペーン情報など

ローランド・ホームページ <http://www.roland.co.jp/>

Sound it! CD キー

Windows 版

Macintosh 版

